

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第687集

# 中山遺跡

—内野圃場整備地内埋蔵文化財調査報告書—

2001

福岡市教育委員会

# 中山遺跡

—内野圃場整備地内埋蔵文化財調査報告書—

2001

福岡市教育委員会

# 序

玄海灘に面して広がる福岡市は、古くから大陸への玄関口として発展し、市内には数多くの遺跡が残されています。私たちはこれらの遺跡を後世に伝えていくことを願い、さまざまな形で遺跡の保護に取り組んでおります。

その一方で本市では都市基盤整備事業等の事業を行い、活力のある都市の建設をおこなっていますが、そのために一部の遺跡が影響をうけるのもまた事実です。福岡市教育委員会ではこれらの遺跡についてはあらかじめ事前に発掘調査を行い、先人の足跡を後世に残せるよう、その記録保存に努力しています。

本書は早良区中山遺跡第1次調査の成果を報告するものです。本書が文化財保護の一助となるとともに、学術研究の資料としてご活用いただけましたら幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行に至るまで多大なご協力を頂いた農林水産局、内野西土地改良組合、地元の関係者の方々に対し、心より謝意を表します。

平成13年3月30日

福岡市教育委員会

教育長 生田 征生

## 例　　言

1. 本書は圃場整備事業に先立って、福岡市教育委員会が平成11年6月22日から平成12年3月8日にかけて行われた中山遺跡第1次調査の調査報告書である。
2. 本書に掲載した遺構実測図の作成は大塚紀宜、藏富士寛が行い、山田ヤス子、吉田智史の協力を得た。
3. 本書に掲載した遺物実測図の作成は大塚が行った。
4. 本書に掲載した遺構写真の撮影は大塚、藏富士が行った。
5. 本書に掲載した挿図の作成は大塚、藏富士が行った。
6. 本書で用いた方位は磁北で、真北から $6^{\circ} 21'$ 西偏する。
7. 本書で使用した遺構の呼称は、上坑・焼土坑をSK、溝をSDとする。
8. 遺構・遺物番号は基本的に通し番号にしており、一部欠番が生じている。
9. 本書に関する記録・遺物などの資料は福岡市埋蔵文化財センターに保管される予定である。
10. 本書の執筆は第2章第4節を藏富士が、その他を大塚が行い、編集は大塚が行った。

## 本文目次

第1章 はじめに	1	第7節 7区調査の記録	17
1. 調査に至る経過	1	1. 調査区概要	17
2. 調査組織	1	2. 検出遺構・遺物	18
第2章 中山遺跡1次調査の記録	3	(1)溝状遺構	18
第1節 1区調査の記録	3	(2)出土遺物	18
1. 調査区概要	3	第8節 8区調査の記録	18
2. 検出遺構・遺物	3	1. 調査区概要	18
(1)半地下式炭窯	3	2. 検出遺構・遺物	20
(2)土坑	3	(1)焼土坑	20
(3)焼土坑	4	(2)溝状遺構	20
(4)出土遺物	5	(3)遺構面出土遺物	20
第2節 2区調査の記録	6	第9節 9区調査の記録	20
1. 調査区概要	6	1. 調査区概要	20
2. 検出遺構・遺物	7	2. 検出遺構・遺物	21
(1)半地下式炭窯	7	(1)焼土坑	21
(2)焼土坑	8	(2)土坑	21
(3)溝状遺構	10	(3)遺構面出土遺物	21
(4)包含層出土遺物	10	第10節 10区調査の記録	22
第3節 3区調査の記録	10	1. 調査区概要	22
1. 調査区概要	10	2. 検出遺構・遺物	22
第4節 4区調査の記録	11	(1)半地下式炭窯	22
1. 調査区概要	11	(2)焼土坑	23
2. 検出遺構・遺物	11	(3)土坑	27
(1)焼土坑	11	(4)調査区内出土遺物	27
(2)出土遺物	11	第11節 11区調査の記録	30
第5節 5区調査の記録	12	1. 調査区概要	30
1. 調査区概要	12	2. 検出遺構・遺物	30
2. 検出遺構・遺物	13	(1)焼土坑	30
(1)焼土坑	13	(2)土坑	35
(2)溝状遺構	13	(3)窯業土坑	36
(3)包含層出土遺物	13	(4)出土遺物	37
第6節 6区調査の記録	14	第12節 12区調査の記録	37
1. 調査区概要	14	1. 調査区概要	37
2. 検出遺構・遺物	15	第3章 総括	38
(1)焼土坑	15	1. 廃棄土坑について	38
(2)土坑	17	2. 炭窯について	38
(3)包含層出土遺物	17		

## 挿図目次

Fig. 1	圃場整備対象位置図 (1/25,000) .....	1	Fig. 25	7区遺物実測図(1/4・2/3) .....	19
Fig. 2	圃場整備地区全体図(1/5,000) .....	2	Fig. 26	8区構造配置図(1/200) .....	20
Fig. 3	1区遺構配置図(1/300) .....	4	Fig. 27	8区遺物実測図(2/3) .....	20
Fig. 4	1区半地下式炭窯実測図1(1/40) .....	5	Fig. 28	8区焼土坑実測図(1/40) .....	21
Fig. 5	1区半地下式炭窯実測図2(1/40) .....	5	Fig. 29	9区遺構配置図(1/200) .....	21
Fig. 6	1区遺構実測図(1/40) .....	5	Fig. 30	9区焼土坑実測図(1/40) .....	22
Fig. 7	1区焼上坑実測図(1/40) .....	6	Fig. 31	9区土坑実測図(1/40) .....	23
Fig. 8	1区遺物実測図(1/4・2/3) .....	6	Fig. 32	9区遺物実測図(1/4・2/3) .....	22
Fig. 9	2区遺構配置図(1/200) .....	7	Fig. 33	10区構造配置図(1/300) .....	23
Fig. 10	2区半地下式炭窯実測図(1/40) .....	8	Fig. 34	10区半地下式炭窯実測図(1/40) .....	24
Fig. 11	2区焼上坑実測図(1/40) .....	9	Fig. 35	10区焼上坑実測図(1/40) .....	25
Fig. 12	2区遺物実測図(1/4・2/3) .....	9	Fig. 36	10区構造実測図1(1/40) .....	26
Fig. 13	3区遺構配置図(1/200) .....	10	Fig. 37	10区構造実測図2(1/40) .....	27
Fig. 14	4区構造配置図(1/600) .....	11	Fig. 38	10区遺物実測図1(1/4) .....	28
Fig. 15	4区遺構配置図・土層(1/60) .....	11	Fig. 39	10区遺物実測図2(1/4) .....	29
Fig. 16	4区遺物実測図(1/4・2/3) .....	11	Fig. 40	10区遺物実測図3(2/3) .....	30
Fig. 17	5区構造配置図(1/300) .....	12	Fig. 41	11区構造配置図(1/300) .....	31
Fig. 18	5区焼土坑実測図(1/40) .....	13	Fig. 42	11区焼土坑実測図(1/40) .....	32
Fig. 19	5区遺物実測図(1/4・2/3) .....	14	Fig. 43	11区土坑実測図(1/40) .....	33
Fig. 20	6区構造配置図(1/300) .....	15	Fig. 44	11区甕塗上坑実測図1(1/40) .....	34
Fig. 21	6区焼上坑実測図(1/40) .....	16	Fig. 45	11区甕塗上坑実測図2(1/40) .....	35
Fig. 22	6区遺構実測図(1/40) .....	17	Fig. 46	11区遺物実測図(1/4・2/3) .....	36
Fig. 23	6区遺物実測図(1/4・2/3) .....	18	Fig. 47	12区構造配置図(1/200) .....	37
Fig. 24	7区構造配置図(1/200) .....	19			

## 図版目次

図版 1	1 1～3区全景(北から)		図版 4	1 6区SK-11(西から)
2	1～3区遠景(南から)		2	6区SK-15(北から)
3	1区全景(北から)		3	7区全景(東から)
4	1区SK-02(南から)		4	8区全景(西から)
5	1区SK-03(南西から)		5	9区全景(南から)
6	1区SK-06(北から)		6	10区南部全景(南から)
7	1区SK-10(北から)		7	10区北部全景(北から)
8	1区SK-12土層断面(南から)		8	10区SK-25付近(南から)
図版 2	1 2区全景(東から)		1	10区SK-25上層(西から)
2	2区SK-01掘削前状況(南から)		2	10区SK-26(西から)
3	2区SK-01(南西から)		3	10区SK-26上層断面(北から)
4	2区SK-01(南東から)		4	10区SK-29検出状況(南から)
5	2区SK-06(北から)		5	10区SK-29付近(南から)
6	2区SK-05(南から)		6	10区SK-24(南から)
7	3区全景(西から)		7	10区SK-28(南から)
8	4区全景(南から)		8	10区SK-37(東から)
図版 3	1 4区SK-01(東から)		図版 6	1 11区西側(北東から)
2	5～7区付近全景(東から)		2	11区全景(西から)
3	5区全景(西から)		3	11区SK-56(北から)
4	5区SK-06(南から)		4	11区SK-12(北から)
5	6区全景(西から)		5	11区SK-11(南から)
6	6区SK-01(南から)		6	11区SK-20(南から)
7	6区SK-04(北から)		7	11区SK-33(南西から)
8	6区SK-10(南から)		8	12区全景(西から)

# 第1章 はじめに

## 1. 調査に至る経過

1997年度（平成9年度）から1999年度（平成11年度）にわたる福岡市早良区内野西地区における団体営土地改良総合整備事業の平成11年度該当地内の埋蔵文化財事前調査願が福岡市農林水産局農業土木課から同市教育委員会埋蔵文化財課に平成9年10月提出された。

これをうけて埋蔵文化財課では当該事業地が中山遺跡の範囲を含み、遺跡外の地区についても遺跡が存在する可能性があることを考慮して、事業対象地内8.7ha全域を対象として平成10年12月に試掘調査を行った。試掘調査の結果、事業対象地の数地点で遺構、遺物を確認し、工事着手前に本調査が必要との見解が出された。

その後両者の協議により、遺構の存在する地点については設計変更を行い、盛土による遺構の保存を目指す方向で調整が進められたが、やむを得ず遺構面が掘削される部分、及び道路、水路などの構造物施工箇所について発掘調査を実施することとなった。本調査は中山遺跡第1次調査として平成11年6月22日から翌12年3月8日まで実施された。

なお、一連の埋蔵文化財発掘調査の実施、及びその後の整理作業と本書の刊行に際しては、多数の作業員、及び農業土木課、さらに地元の方々の多大な協力を得ることができました。心から御礼申し上げます。

## 2. 調査組織

調査委託 福岡市農林水産局農林部農業土木課

調査主体 福岡市教育委員会 教育長 西憲一郎（前） 生田征生（現）

調査総括 文化財部長 柳田純孝

埋蔵文化財課長 山崎純男

埋蔵文化財課調査第一係長 山口譲治

調査庶務 文化財整備課 宮川英彦

調査担当 埋蔵文化財課調査第一係 大塚紀宣 藏富士寛



Fig. 1 地図整備対象地位置図 (1/25,000)



Fig. 2 整備地区全体図 (1/4,000)

## 第2章 中山遺跡第1次調査の記録

中山遺跡周辺の歴史的環境については、「峯遺跡群」(福岡市埋蔵文化財調査報告書第618集 1999)、『内野遺跡』(福岡市埋蔵文化財調査報告書第653集 2000)を参照していただきたい。

### 第1節 1区調査の記録

#### 1. 調査区概要(Fig.3)

1区調査地点は対象地の南側に位置し、標高83m～86mを測る。調査区南側は舌状丘陵の斜面部分に位置し、調査区は丘陵斜面との境界付近に設定される。南側山稜は基盤花崗岩層、北側は明褐色粘土上面で遺構を検出する。遺構は調査区全体に分布するが、周辺部分では削平が著しく、遺構密度は散漫になる。また調査区西側は谷頭にあたり、急斜面になる。

検出された遺構には、半地下式炭窯、土坑、焼土坑、溝、ピットなどがあり、遺構の密度は調査区のほぼ中央部で高くなっているが、これはこの部分が段造成の際に削平の度合いが軽く、遺構の遺存状況が良好であるためと考えられる。

#### 2. 検出遺構・遺物

##### (1) 半地下水式炭窯

SK-01(Fig.4) 調査区北東部で検出された炭窯とみられる遺構で、遺存状況は悪い。検出時に幅80cm、長さ4.4mで黒色土の広がる範囲が確認され、炭窯最下部が遺存しているものと見られた。掘り下げの結果、遺構壁面はほとんど遺存せず、中央部分では床面範囲も不明瞭になる。遺構部分の深さは最も深い部分で5cm前後である。平面形は長方形に近いが、本来の遺構床面全体ではないと考えられる。

遺構長軸方向は北西～南東方向に直線的に延び、北東側が低く南西側にごく緩く上ることから、本来北東側に焚口があったものとみられるが、検出できていない。検出部分は窯体部とみられ、炭粉塊は遺存するが良好な炭材は遺存しない。また床面部分に被熱の強い個所も見られない。南西側端部には煙道があったと考えられるが、この部分も遺存しない。

出土遺物は炭化材以外には検出されていない。

SK-12(Fig.5) 調査区北東部で検出された炭窯と見られる遺構で、北東側は削られて遺存しない。SK-01に隣接し、遺構長軸の方向もほぼ一致する。検出時には幅70cm、長さ2.4mの範囲で炭化物を多く含む遺構を検出し、壁面、床面の状況が炭窯の構造に近似することから炭窯と断定した。平面形は長方形になるとみられ、北東部を欠くが全長5～7mはあったものとみられる。SK-01と同様に北西側が低く、南東側に緩く上ることから、焚口は北東側にあったものとみられる。床面はほぼ平面で一部に被熱し亦変した範囲がある。側壁沿いにピット1ヶ所と、その反対側に突出部があり、支柱がかった可能性もある。側壁は床面から角度をつけて立ち上がり、被熱した個所もみられる。

出土遺物は炭化物以外には検出されていない。

##### (2) 土坑(Fig.6)

SK-01 調査区南側で検出された土坑で、平面形は略長方形で内部にテラスをもつ。床面、壁面ともに凹凸が大きく、また焼土坑と形態が近いが、周囲の壁に被熱した痕跡はない。

SK-02 調査区南側で検出された土坑。平面形は略楕円形で、北側に側溝をもち、床面は段状になる。遺構の位置、形状から見て、階段機能をもつ遺構になると考えられる。

SK-17 調査区南側で検出された土坑。平面形は略長方形。断面は台形で、側壁は上方に開く。掘り方が他の土坑より緊っており、土塙墓の可能性が高い。遺物は出土していない。



Fig. 3 1区遺構配図(1/300)

SK-21 調査区西側で検出された土坑。平面形は円形で、断面は盆状になり、北側側壁が垂直に立ち上がり、南側は緩く立ち上がる。床面には緩い凹凸が見られる。遺物は出土していない。

### (3) 焼土坑 (Fig. 7)

1区全体で9基の焼土坑を検出する。平面形態からいくつかに分類可能である。

SK-03、05、07、10は平面形が長方形又は略長方形になるもの。壁はいずれも垂直に立ち、床面は平面でビット、炭化材が遺存するものもある。壁は強く被熱する。土層堆積は自然埋没の様相を示し、

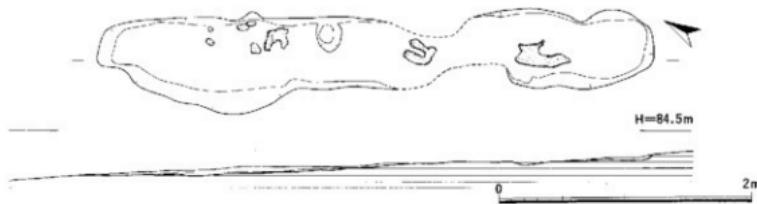


Fig. 4 1区半地下式炭窯実測図 1 (1/40)

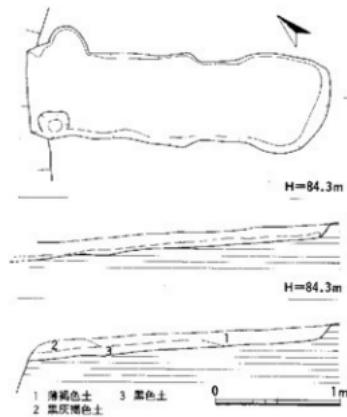


Fig. 5 1区半地下式炭窯実測図 2 (1/40)

最下層には炭化物層が堆積する。

SK-06は平面形が台形になるもので、床面は平面でピットがみられる。壁は垂直に立つ。壁は強く被熱する。最下層には炭化物層が堆積し、遺構南側で炭化材が遺存する。

SK-04、05、08、16は平面形が不整形になるもの。遺構は浅い皿状で、床面の被熱は弱い。遺構覆土として黒色炭化物層が薄く堆積する。

#### (4) 出土遺物 (Fig. 8)

遺構内の出土遺物は遺存状況が悪く、図示したものはいずれも表土・包含層出土のものである。1は縄文土器の浅鉢口縁部。頭部から外反し、端部で上方に屈曲する。2は弥生土器底部。やや上げ底氣味で外面に整形痕が残る。3は白磁で、高台は短く、内面見込みに沈線を回し、外面にハケ痕跡が残る。4は上節皿で、底部は糸切り。5は石鏃で、安山岩製。

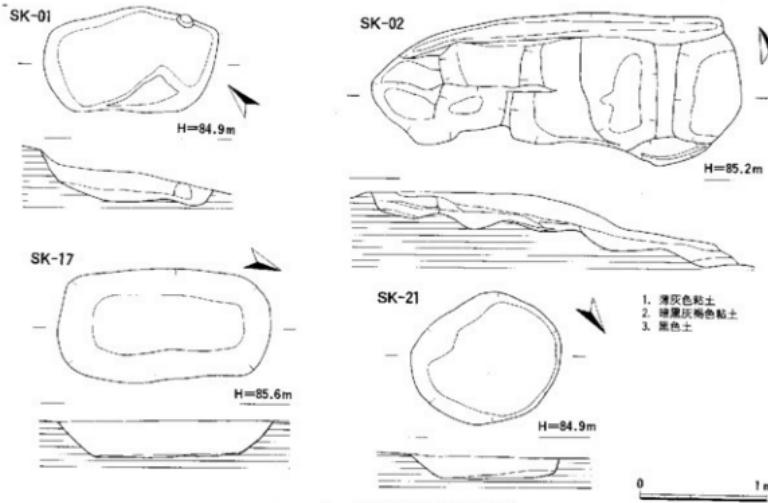


Fig. 6 1区遺構実測図 (1/40)

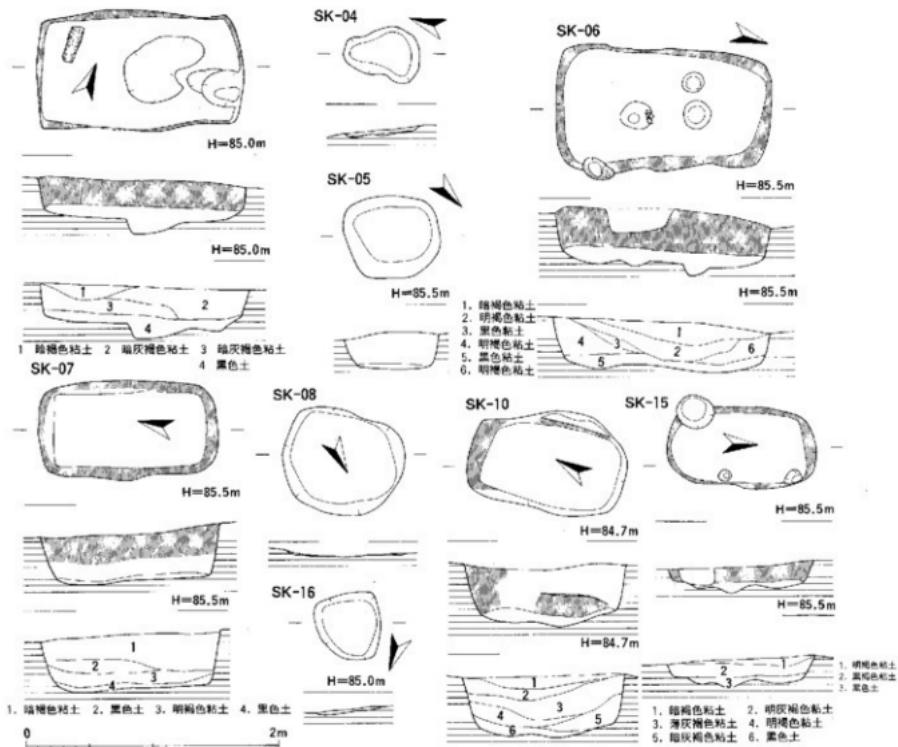


Fig. 7 1区焼土坑実測図(1/40)

## 第2節 2区調査の記録

### 1. 調査区概要(Fig.9)

2区調査地点は対象地の南側に位置し、標高78m～79mを測る。調査区は丘陵斜面との境界付近に設定され、調査区南外側は急斜面となる。1区と同様に南側山際は基盤花崗岩層、北側は明褐色粘土上面で遺構を検出する。遺構は調査区全体のなかで北側に主に分布しており、南側は水田造成の際に削平を大きく受けた遺構は遺存しない。また調査区の北外側、西外側は大きく落ちる。

検出された遺構は半地下式炭窯、焼上坑、溝、ピットなどで、遺構密度は散漫である。

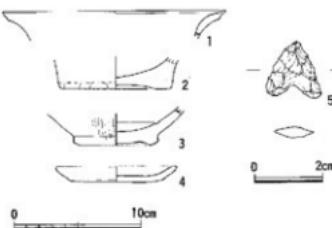


Fig. 8 1区遺物実測図(1/4・2/3)

## 2. 検出遺構・遺物

### (1) 半地下式炭窯 (Fig. 10)

SK-01 調査区北西部分で検出された半地下式炭窯で、中央部をSD-04に切られる。検出段階で全長7.3m、幅90~110cmの隅丸長方形で、主軸方向は北西~南東方向に延びる。奥壁は主軸に対し、わずかに傾く。遺構覆土は黒色炭化物層で、焼上を若干含む。

北西側が低く、南東側に緩く上ることから、焚口は北西側にあったものと見られるが、焚口自体は削平されて遺存しない。窯体幅はほぼ一定で、本来の床面の幅を留めていると考えられる。側壁は2~3cmの高さしか遺存しない。側壁は床面から垂直に立ち上がる。床面はほぼ平面で、わずかに凹凸が見られる。傾斜角は全体を通じてほぼ一定である。遺構南東端部に一段低い浅い凹みがあるが、この部分がどのような機能を持つか不明。またその両側付近にピット、突出部があり、支柱が設けられていた可能性がある。

遺構内の奥壁側で良好に炭化材が遺存する部分を検出している。遺存部分は5~10cm長の木炭が積

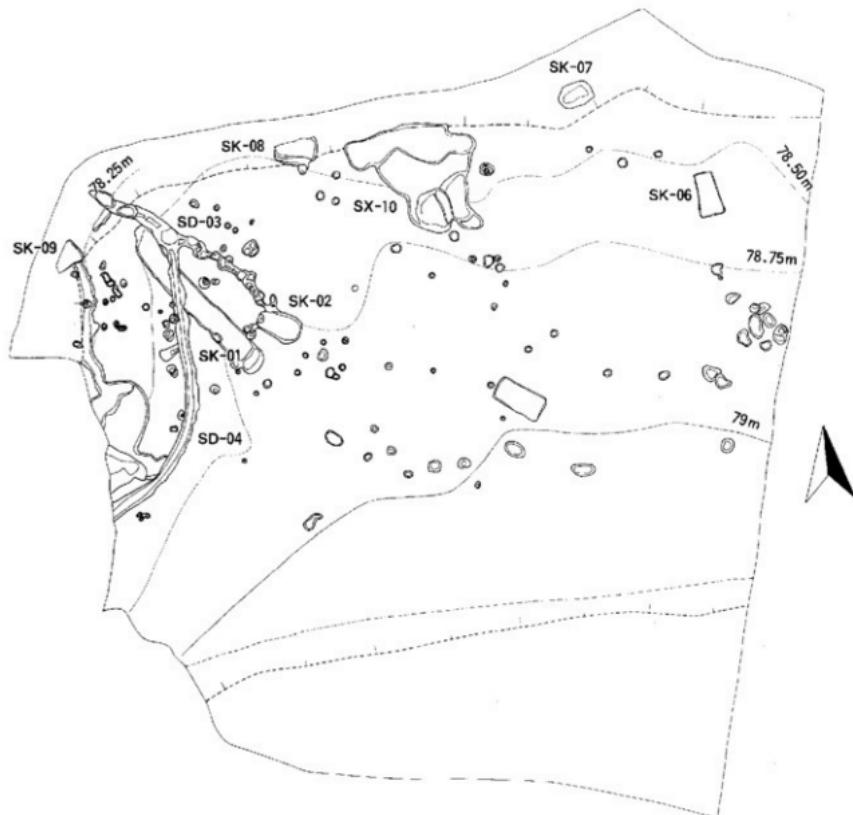


Fig. 9 2区遺構配置図(1/200)

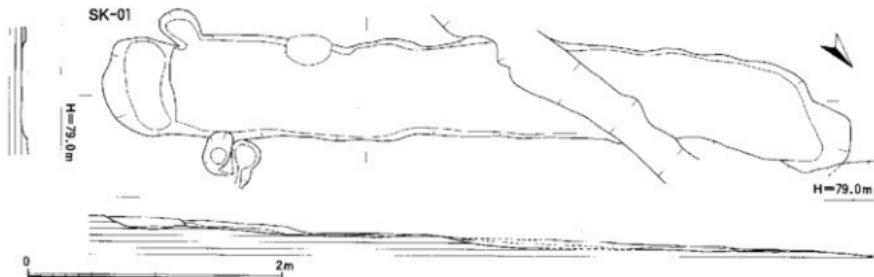


Fig. 10 2区半地下式炭窯実測図(1/40)

み重なった状況で出土している。木炭の方向は主に横方向だが、完全には一致していない。また木炭の間に焼土が入り込むが、これは窯体の崩落時に焼土壁が堆積したものと見られる。

遺構内から土器片が出土しているが、破片が微細で磨滅しており、時期など詳細な情報は不明。

## (2) 焼土坑 (Fig. 11)

**SK-02** 調査区西側で検出された焼土坑。SK-01に隣接する。平面形は隅丸長方形で、各辺は丸みをもつ。主軸方向は北西—南東方向に向く。西辺が東辺よりもやや短い。側壁はほぼ直に立ち上がる。床面との境界は丸く、緩く立ち上がる。壁面は前面が強く被熱し、赤変し硬化するが東側の被熱が弱い。床面には細かい凹凸が見られる。遺構内は最下層に炭化物層が堆積し、上層に上砂が流れ込んだ状況で検出されている。南西側の床面直上で大量の炭化物、焼土塊が出上り、操業時に崩落したとみられる。

**SK-05** 調査区中央部で検出された焼土坑。平面形は長方形で、両短壁はほぼ同じ長さになる。各壁は直線的で四隅は明瞭である。側壁は、南壁がオーバーハングして立ち上がる他は垂直に立ち上がる。南側壁はドーム形の痕跡とみられる。各壁面は強く焼ける。床面はほぼ平面で凹凸は少ない。床面付近で炭化物が良好に遺存し、方向は長軸に平行する。東側床面直上で平石を検出したが焼けた痕跡はなく、操業後に落ち込んだものと考えられる。遺構覆土は炭を多く含む灰褐色粘質土が主で、焼土を多く含む。最下層には炭化物層が堆積し、上層は流れ込みの様相を呈する。上層より壺とみられる中世陶器片が出土しているが小片で図示不能。

**SK-06** 調査区東側で検出された焼土坑。平面形は台形で南側壁が北側壁より長い。各壁は直線的で、四隅は明瞭である。側壁は床面から直に立ち、各壁面とも強く焼けて赤変し硬化する。床面はほぼ平面で、北側が下がる。土坑内南側で炭化物が集中する部分があるが、炭化物の単位は不明瞭で材の方向も不定である。遺構覆土は明薄灰赤褐色土を主とし、炭を多く含む。南側床面直上で炭化物層が薄く堆積する。出土遺物はない。

**SK-07** 調査区北側端部で検出された焼土坑と見られる土坑。遺構覆土は暗黒褐色で炭化物を含むが、側壁は被熱が弱く、床面の炭化物の堆積量も少ない。遺構形状は平面形は梢円形～隅丸長方形で、北側部分は削平される。壁は床面から緩く立ち上がり、上方で開く。床面は緩く湾曲する。

遺構内から土器片が検出される。磨滅しており、時期等は不明。

**SK-08** 調査区北端で検出された焼土坑で、北側を大きく削られる。平面形は台形または長方形とみられ、主軸はほぼ東西方向に向く。遺構南隣にピットがあり、土層の堆積状況は両者が一体となって

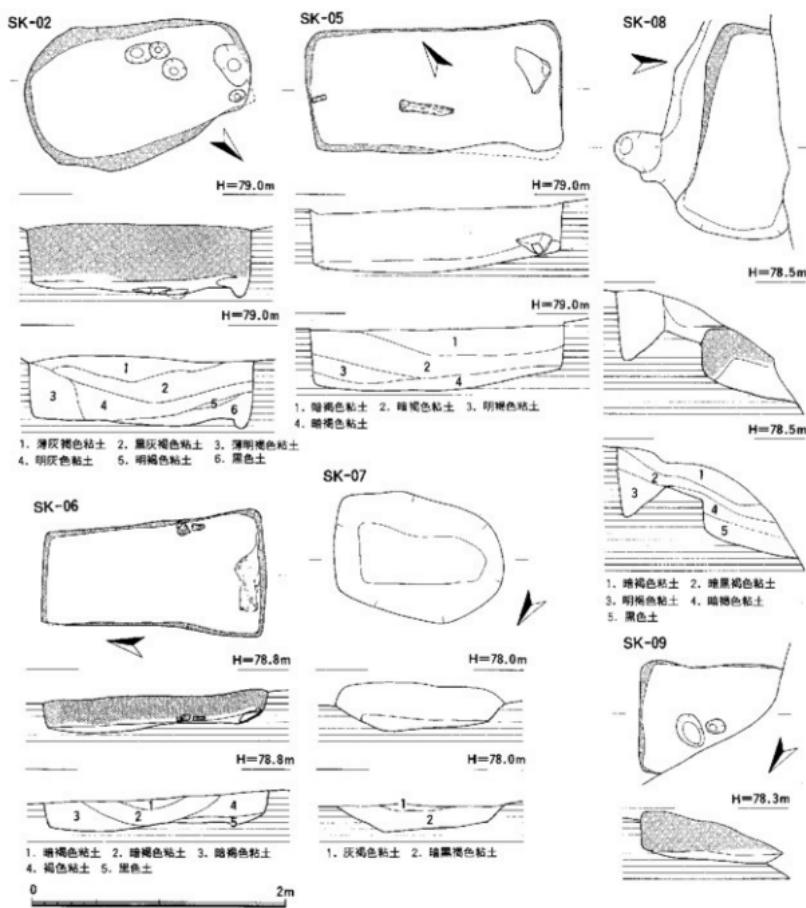


Fig. 11 2区烧土坑实测图(1/40)

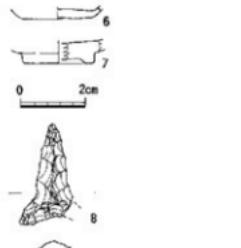


Fig. 12 2区遗物实测图(1/4·2/3)

いる。側壁は直に立ち、強く被熱する。南壁はテラス状になり、下部が被熱する。床面はほぼ平面で、北側に緩く傾斜している。遺構覆土は暗灰褐色で、覆土中に焼土塊が落ち込む。

SK-09 調査区北西側で検出された焼土坑で、平面形は本来長方形だったとみられる。北西側が大きく削られる。壁面は直に立ち、遺存する壁面は全面強く被熱する。床面は西側に緩く下る。ピットがあり、覆土に炭が混入する。出土遺物はない。

#### (3) 溝状遺構

SD-03 調査区西側で検出された溝状遺構で、SK-02を起点に北西方向に下る。平面形は凹凸が激しく、床面にも凹凸が多い。断面はU字形で壁と床の境界は不明瞭で床から緩く立ち上がる。床面の形状から自然流路の可能性が高い。西側のSD-04合流点より下は更に一段深くなる。遺構内から黒曜石、土師器小片が出土している。土師器は磨滅著しく、器種・時期等不明。

SD-04 調査区西側で検出された溝状遺構で緩く湾曲する。遺構覆土は黒色粘土で、軟質で保水性高く、炭を多く含む。北側はSK-01を切った地点で切れ、SD-03を切る。断面は深いU字形で、両壁は直に立ち上がり、上方で緩く開く。床面は平面で、流水の痕跡はない。遺構内から中世に属するとみられる遺物が出土している。

#### (4) 包含層出土遺物(Fig.12)

6、7は中世の遺物。6は土師器皿、7は青磁楕で底部破片のみ。8は打製石鏃で、全体に細長く、脚部が両側に開く。

### 第3節 3区調査の記録

#### 1. 調査区概要(Fig.13)

3区調査地点は対象地の南側に位置し、1区の北側にあたる。標高77m～78mを測る。1区付近から緩く傾斜する斜面に位置し、周囲は段造成されている。試掘調査でピットを確認したため調査対象としたが、遺構検出の結果、調査区東側の大部分が溝状の搅乱によって破壊され、遺存状況は極めて悪い。検出された遺構はピット、溝などで、調査区西側で検出されたピットは一列に並び、棚列になるとみられる。遺構の時期は不明。東側の溝状搅乱の時期は近世以降で、造成に伴うものと考えられる。図示できる出土遺物はない。

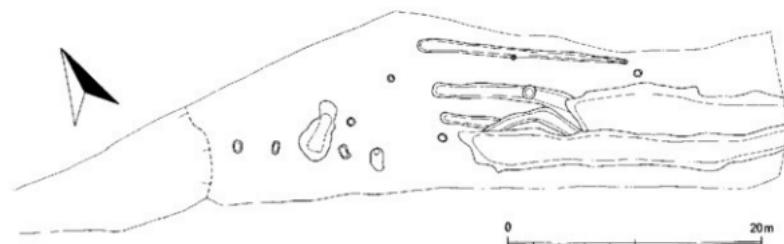


Fig. 13 3区遺構配置図(1/200)

## 第4節 4区調査の記録

### 1. 調査区概要

4区は河川沿いに設定された幅3~4m、長さ130mの調査区である。遺構は調査区北側で検出された焼土坑1、ピット5のみである。また、これらの遺構に接して溝1が存在する。この溝は幅1.3m、深さ1mで断面形は逆台形を呈する。壁面はしっかりした立ち上がりを有する。この溝は調査区内で27mほど続き、これより南側では幅広となり、明確な立ち上がりをおさえることが出来なかった。自然流路と考えられる。遺構は黄褐色シルト質土上で検出した。ピットの1つは焼土坑を切り込んでおり、ピット群は焼土坑に後出するものであろう。

### 2. 検出遺構・遺物

SK-01 長さ1.5m、幅1mの楕円形を呈する焼土坑で、深さ20cmと遺存状況は悪い。埋土上層には炭が堆積する。遺構内からの出土遺物はな

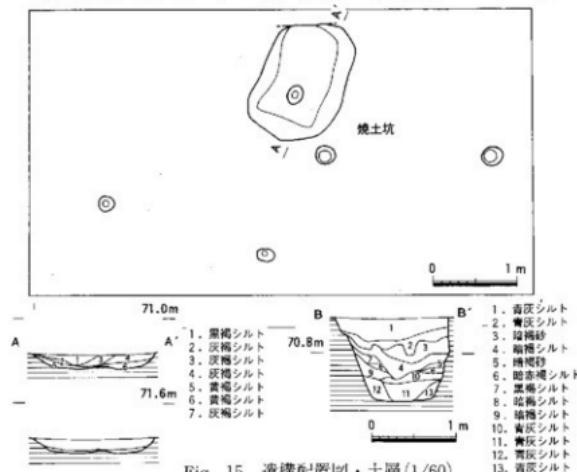


Fig. 15 遺構配置図・土層(1/60)

い。

包含層出土遺物 9は弥生中期の壺形土器口縁部で、小片で風化著しい。10は石匙で刃部を欠く。安山岩製。

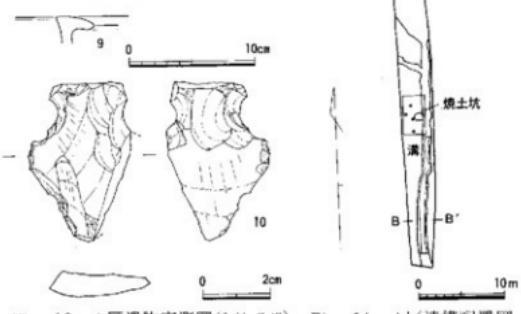


Fig. 16 4区遺物実測図(1/4・2/3) Fig. 14 4区遺構配置図(1/600)

## 第5節 5区調査の記録

### 1. 調査区概要(Fig.17)

5区～9区は南から延びる丘陵の西側に位置し、西側は川に面する。5区は丘陵の北西端部に接し、調査区東側は急斜面となる。標高は74m～77mにかかる。調査区内は、南側で丘陵斜面の延長と見られる急斜面が続き、北側では緩斜面や平坦面となる。調査区中央に南北方向の谷があり、河川原が広がるため、この部分に遺構は広がらない。遺構は調査区全体の中で南側斜面や中央谷部分を除いた部分に分布している。遺構面は明褐色粘土で礫を多く含むが、大きく削平を受けしており、遺構密度は散

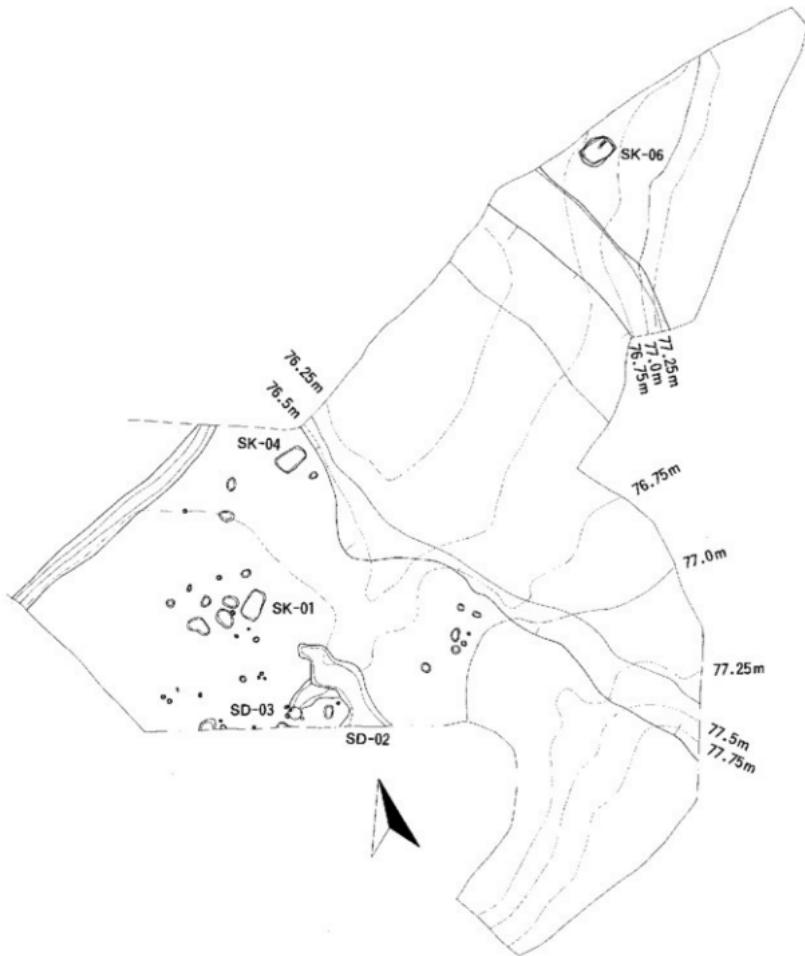


Fig. 17 5区遺構配置図(1/300)

漫で明確な遺構は少ない。また調査区北西隅上層から縄文中期の遺物を多く検出したが、遺構面以下の出土が多く、客土中のものと見られる。

## 2. 検出遺構・遺物

### (1) 焼土坑 (Fig. 18)

SK-01 調査区西側で検出された焼土坑で、平面形は台形で、南西側で丸みをもつ。検出時の深さからみて、削平を受けているとみられる。側壁は床面から緩く立ち上がり、壁面には凹凸が見られる。南西側側壁は北東側より長くなる。床面は細かい凹凸があり、わずかに北東側で下がる。側壁、床面の被熱は弱い。

SK-04 調査区西側で

検出された焼土坑。平面形は台形に近く、わずかに歪む。検出時の深さはからみて削平されている。各側壁は床面から聞いて立ち上がり、壁面には凹凸がある。床面にも細かい凹凸が見られ、北西側がわずかに低くなる。

SK-06 調査区東側で検出された焼土坑。平面形は長方形に近く、各壁とも丸みをもつ。壁面は床面から直に立ち、西側で被熱が強い。床面は平坦で、床面直上で遺存良好な炭化材が検出される。材の方向は長軸方向に平行で、焼成時の位置を留めていると見られる。

### (2) 溝状遺構

SD-02 調査区西側で検出された遺構で、平面形は不整形。調査区内で切れており、機能・性格などは不明。自然流路の可能性もある。

SD-03 調査区西側で検出された遺構でSD-02から派生する。SD-02と同様自然流路の可能性が高い。

### (3) 包含層出土遺物 (Fig. 19)

調査区表土、農道部分盛土から縄文、弥生、中世の遺物が出土している。11~15は青磁。11は外面に鎬廻弁文が施され、12は内面に劃花文が片彫りされる。16は土器師杯底部とみられる。17~19は弥生時代石器。17は磨製石斧で刃部は鋭利さを保つ。18、19は滑石製石製品で用途不明。20~23は阿高式土器。23は底面に鰐脊椎痕が残る。24、25は縄文後期、26は突帯文に属する。27~30は打製石器で

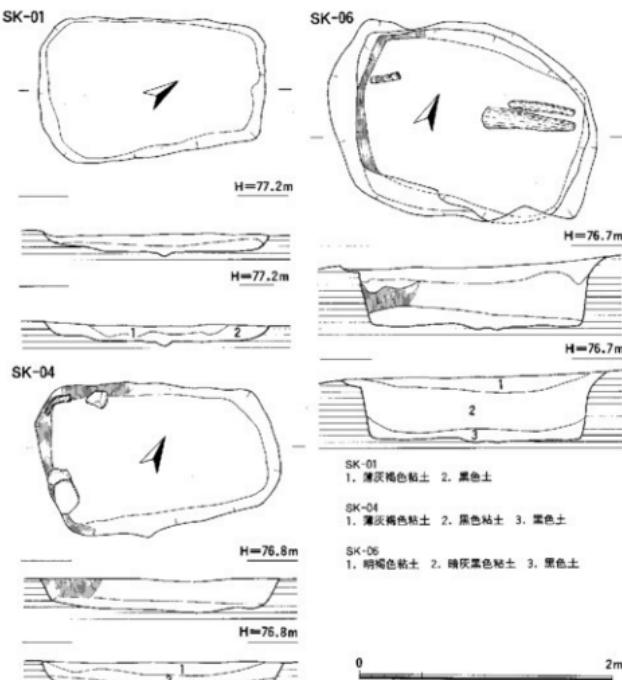


Fig. 18 5区焼土坑実測図(1/40)

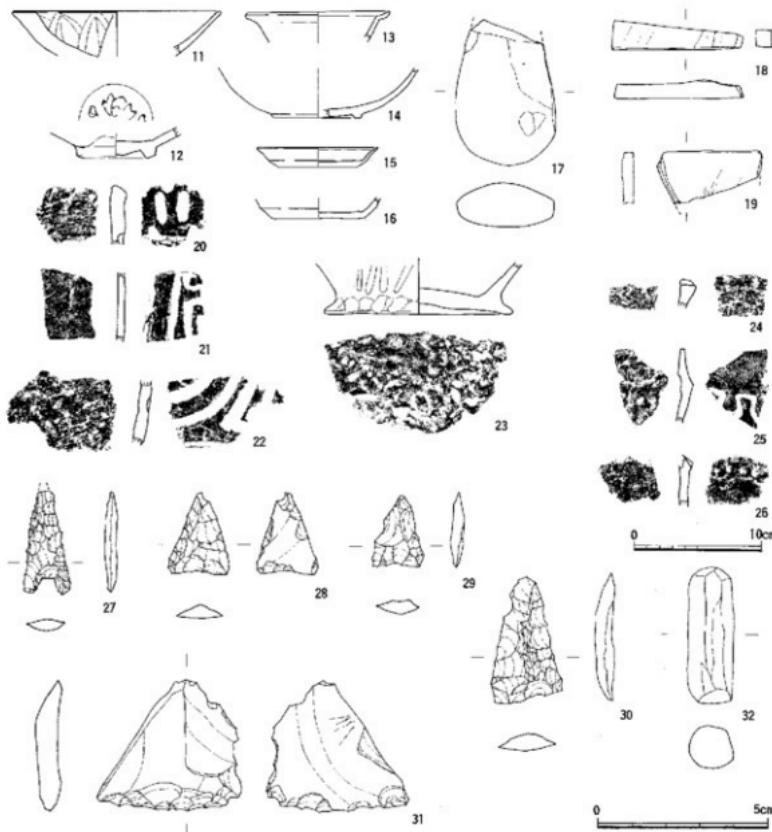


Fig. 19 5区遺物実測図(1/4・2/3)

いずれも安山岩製。27は細形で両側は鋸歯状になる。28~30は抉りが小さく30は細形でやや大きくなり、尖頭器の可能性がある。31はスクレイバーで薄片に刃部を作る。安山岩製。32は滑石製で、棒状で外面は研磨される。製品の性格は不明。

## 第6節 6区調査の記録

### 1. 調査区概要(Fig.20)

6区調査区は5区調査区の北側に隣接する。標高は74m~75mで、遺構面は明褐色粘質シルトで疊を多く含み、北へ緩く傾斜する。調査区東側は遺構密度が低くなり、東端は河川範囲になる。遺構面下層には绳文時代の遺物を包含するが、下層調査の結果、遺物に伴う遺構は検出されない。

## 2. 検出遺構・遺物

### (1) 焼土坑(Fig. 21)

SK-01 調査区南側で検出され、平面形は北側側壁がやや丸まる。壁面の被熱は強く、四周の側壁はほぼ全面赤変する。床面は凹凸が少なく、床面直上で炭化材が良好な形で検出される。

SK-02 調査区南側で検出された焼土坑。隅丸長方形だったと見られる。北側を土坑に切られる。全体に細長く、南側短辺は格円形に近い。側壁は南側が直立し、北側側壁が緩く立ち上がる。側壁の被熱部分は少ない。床面は平面で凹凸は少ない。全体に本来の形は留めていない。

SK-03 調査区南側で検出された焼土坑。検出時の深さは15cmで、大きく削られる。平面形は長方形で南東側壁が北西側壁より長い。北西側壁の上端付近に被熱し変した痕跡が見られる。

SK-07 調査区南側で検出された焼土坑。平面形は隅丸長方形で、北側側壁が丸みを帯びる。南側壁は直立し、被熱も強い。床面は礫の抜き痕が多く、凹凸が多い。

SD-08 調査区西側で検出された焼土坑で、平面形は円形で南北方向にわずかに長い。ごく浅く、皿状を呈する。覆土は黒色土で、床面の被熱は弱い。

SD-09 調査区北西隅で検出された焼土坑。平面形は長方形で、側壁は直線的に延びる。側壁は西壁がオーバーハング気味で、他の壁は直立する。床面は礫の抜き痕により凹凸が目立つ。

SK-10 調査区北西隅で検出され、平面形は隅丸長方形。短辺がやや丸みをもつ。削平され、検出時の深さは20cm程度である。壁面は直に立ち、被熱の強い南側壁が良く残る。

SK-11 調査区北西隅で検出され、平面形は長方形で直線的である。削平され、検出時の深さは25cmである。壁面は床面か

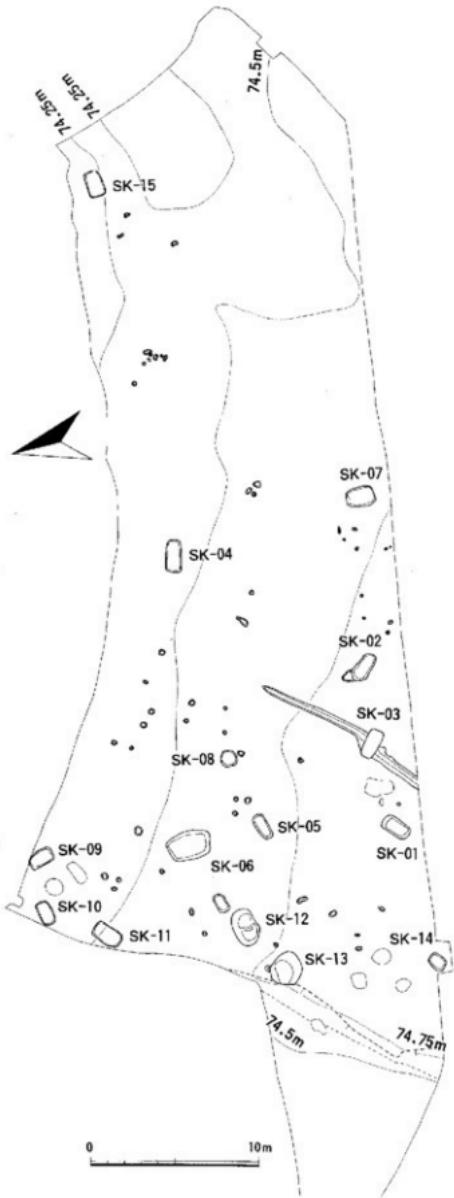


Fig. 20 6区遺構配置図(1/300)

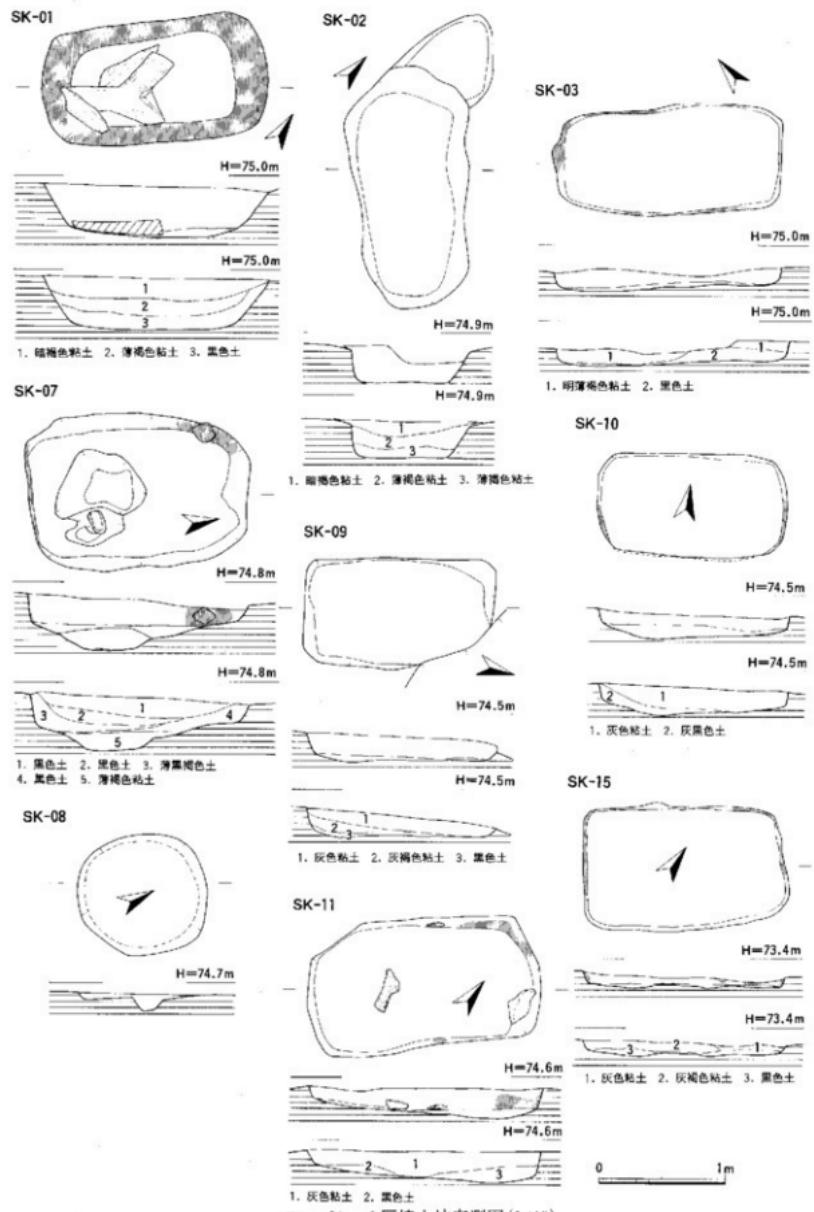


Fig. 21 6区烧土坑实测图(1/40)

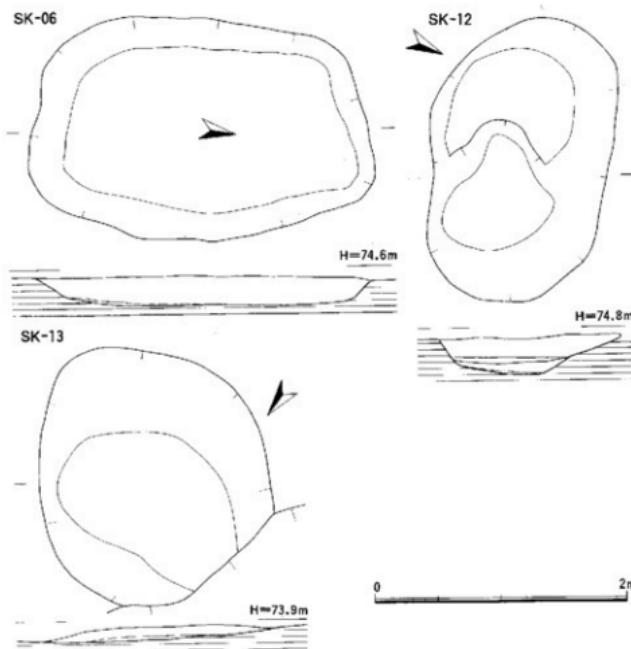


Fig. 22 6区遺構実測図(1/40)

で検出される。円形の上坑で西側は削られる。ごく浅い皿状を呈し、床面は被熱する。覆土は灰色粘土で、炭化物が若干含まれる。

### (3) 包含層出土遺物 (Fig. 23)

中世の遺物が表土から、縄文前期～中期の遺物が遺構面下層から出土している。縄文の遺物は調査区の西側下層で出土しているが、分布は散漫である。33～40は縄文土器。33～36は前期に属し、横方向の沈線文が施文される。37は中期の阿高式。39は後期のもので、屈曲部にリボン状の貼付けがある。41～46は中世の遺物。41、42は白磁。41は素文で口縁内面は口ハゲ。43～45は青磁で、43は内面に流雲文を施文する。44は内面に割花文を、45は花文を施文している。46は擂鉢。47～49は打製石器で縄文時代の遺物。47、48は石鎚で安山岩製。47は細形で調整が粗く、未製品ともみられる。49はスクリバーで片面に調整を行い刃部をつくる。安山岩製。

## 第7節 7区調査の記録

### 1. 調査区概要 (Fig. 24)

7区は6区の東側に位置し、丘陵北側の山際に位置するものとみられる。耕作土直下で遺構面を検出する。遺構面は灰色シルト層で粗砂を多く含み、河川流域の様相を呈する。検出された遺構は溝、ピットで、西側に集中する。調査区東側は河川で、粗砂、礫を多く含み、湧水が見られる。

ら直立するが、残りは悪い。床面には礫による凹凸が目立つ。

### (2) 土坑 (Fig. 22)

SK-06 調査区西側で検出される。平面形は長方形に近い不整形で、壁は床から緩く立ち上がる。断面形は皿形～椀形を呈する。床面はほぼ平坦で、南北の高低差は少ない。

SK-12 調査区西側で検出される。平面形は不整形で、椭円形に近い。壁は緩く開いて立ち上がる。床面との境界は不明瞭で断面形は皿状を呈する。西側にテラスをもち、一段高くなる。

### SK-13 調査区西端

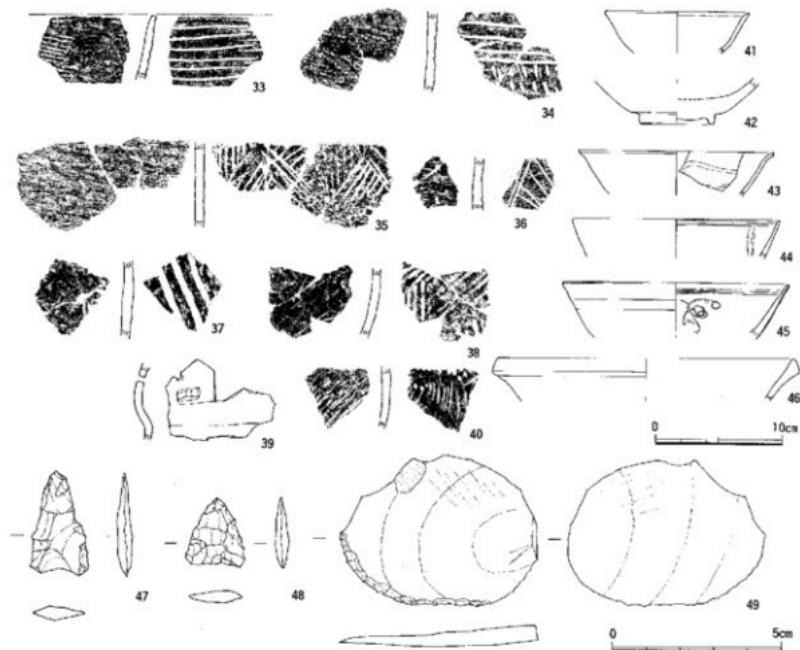


Fig. 23 6区遺物実測図(1/4・2/3)

## 2. 検出遺構・遺物

### (1) 溝状遺構

SD-01 調査区東側の河川跡で、湧水が著しい。断面は皿状で、川岸まで緩く上る。

SD-02 調査区西側で検出した溝状遺構で壁、床面とも凹凸が著しい。自然流路と見られる。

SD-03 調査区西側で検出し、湧水が見られる。壁、床面とも凹凸が著しく、自然流路とされる。

### (2) 出土遺物(Fig.25)

50～53はSD-01出土。50、51は青磁碗。52、53は土師器皿でいずれも糸切り。54、55、60は調査区遺構面出土。54は土師器皿で底部糸切り。55は縄文土器で外面に突帯を貼り付ける。60はスクレイパーで、片面を調整して刃部を作る。56～58はSD-02出土の縄文土器で外面に突帯を貼り付ける。55～58は縄文前期に属する。

## 第8節 8区調査の記録

### 1. 調査区概要(Fig.26)

8区は丘陵に西側に面する緩斜面上に位置する。標高は78m～79mを測る。遺構面は耕作上下10～20cmの明褐色粘土上面で、調査区中央が尾根状に高くなる。検出された遺構は焼土坑、溝、ピットで、

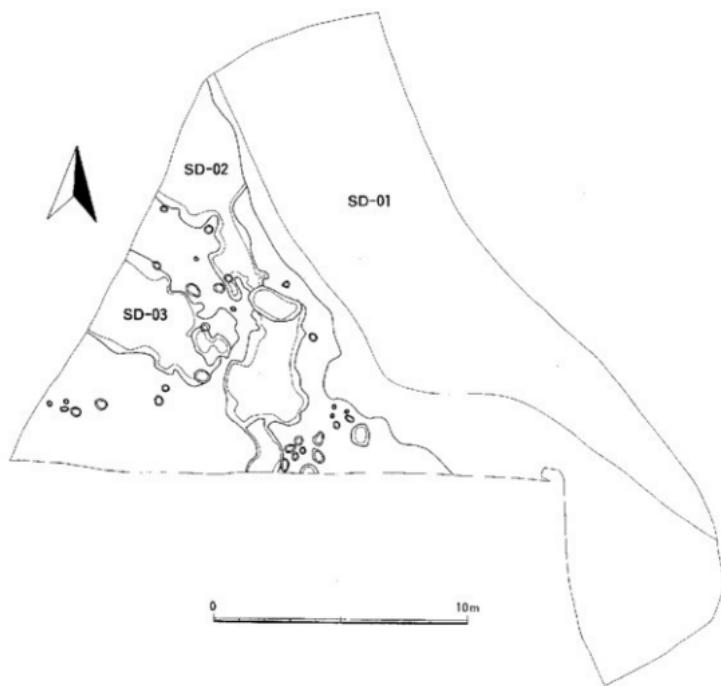


Fig. 24 7区遺構配置図(1/200)

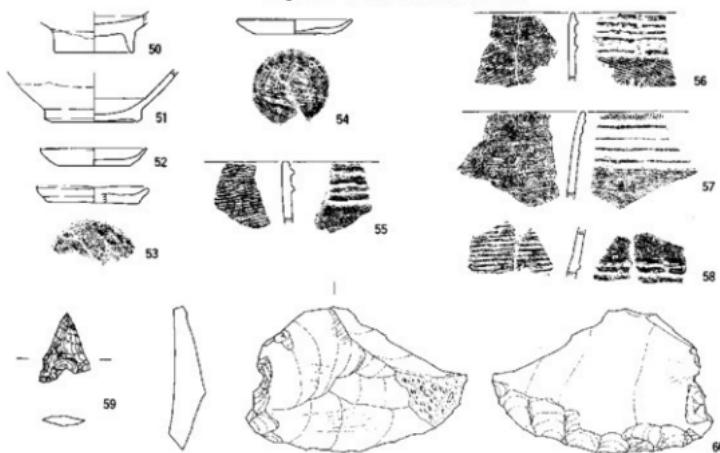


Fig. 25 7区遺物実測図(1/4・2/3)

いずれの遺構も遺存状況は良くない。遺構の密度も低く、一帯に削平を受けているものと考えられる。表上・遺構面から中世の遺物が出土するが、小片で図示不可。

## 2. 検出遺構・遺物 (Fig. 28)

### (1) 焼土坑

3基の焼土坑が検出され、各焼土坑は集中して検出されており、相間があるものと考えられる。

SK-01 調査区中央で検出された焼土坑で、主軸方向を南北とする。検出時の深さは20cmで相当削平されていると考えられる。平面形は隅丸台形で、東側側壁が丸みを帯びる。側壁は床面から開き気味に立ちあがり、側壁の被熱は強い。床面は南側でやや低くなり、緩い凹凸がある。

SK-02 調査区中央で検出された焼土坑で、主軸を東西に取り、SK-01の主軸に直交する。検出時の深さは15cmで、削平されているとみられる。平面形は隅丸長方形で、北側の側壁が丸みを持つ。側壁は床面からやや開き気味に立ち上がる見られる。床面は平坦で細かい凹凸がある。

SK-03 調査区中央で検出された焼土坑で、平面形は台形に近い不整形で検出される。大きく削平を受けしており、床面付近だけを検出しているとみられ、本来の形は若干異なると考えられる。床面は南側が低く、細かい凹凸がある。遺構壁面の被熱は弱い。

### (2) 溝状遺構

SD-04 調査区中央で検出された溝状遺構で、南北方向に伸びる。現在の水田畦畔に沿う方向で、水田に関連する遺構であろう。覆土から中世の遺物が出土する。

### (3) 遺構面出土遺物 (Fig. 27)

61は打製石鎌。安山岩製で調整は粗く、左右の脚の長さが異なる。

## 第9節 9区調査の記録

### 1. 調査区概要 (Fig. 29)

9区調査区は8区調査区の東側に隣接し、丘陵の西側に接する山際に位置する。耕作土下5~10cmで花崗岩風化土の遺構面に達する。調査区内は大きく2つに分けることができ、調査区南東側は丘陵部分

にかかり、急斜面になる。調査区北西側は平坦面で緩く北側に傾斜し、遺構密度は薄い。検出された遺構は焼土坑、土坑、溝、ビットで、遺構は山

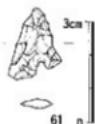


Fig. 27 8区遺物  
実測図(2/3)

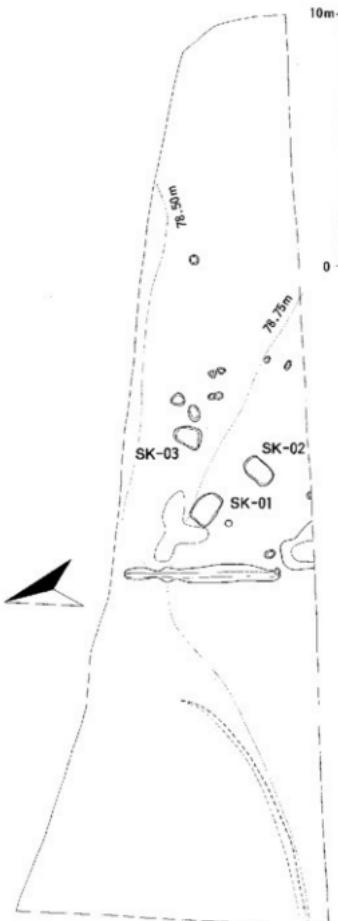


Fig. 26 8区遺構配置図(1/200)

際の斜面部分で密  
度が高い。

## 2. 検出遺構・ 遺物

### (1) 焼土坑

(Fig.30)

SK-01 調査区西側で検出された焼土坑で、平面形は橢円形に近い不整形になる。南東側側壁は直線的で、北西側側壁が丸く

突出する。床面は緩く内湾する。壁面上方で強い被熱部分がある。

SK-02 調査区西側で検出される。SK-01に切られ、東側は削られる。主軸方向はSK-01とほぼ平行で相互に関連すると考えられる。北西壁は丸く突出し、側壁の上半は強く被熱する。

SK-03 調査区西側で検出された焼土坑で、平面形は不整形。断面は浅い皿状で、床面には凹凸が多い。被熱は弱い。

### (2) 土坑(Fig.31)

SK-04 調査区東側で検出された土坑で、平面形は長方形で両長辺が外側に張り出す。検出時でごく浅く、皿状になる。底面はほぼ平面で北側で浅い窪みが見られる。

### (3) 遺構面出土遺物(Fig.32)

62は土師器皿底部と見られる。底面は糸切り。63は石匙で先端部を欠く。

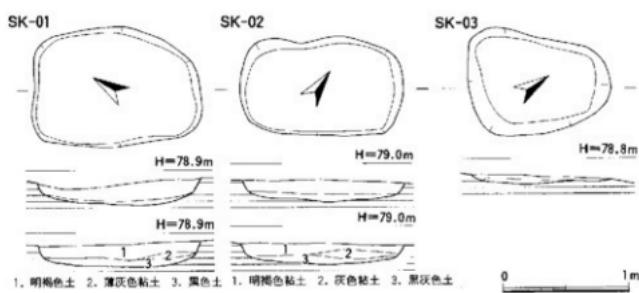


Fig. 28 8区焼土坑実測図(1/40)

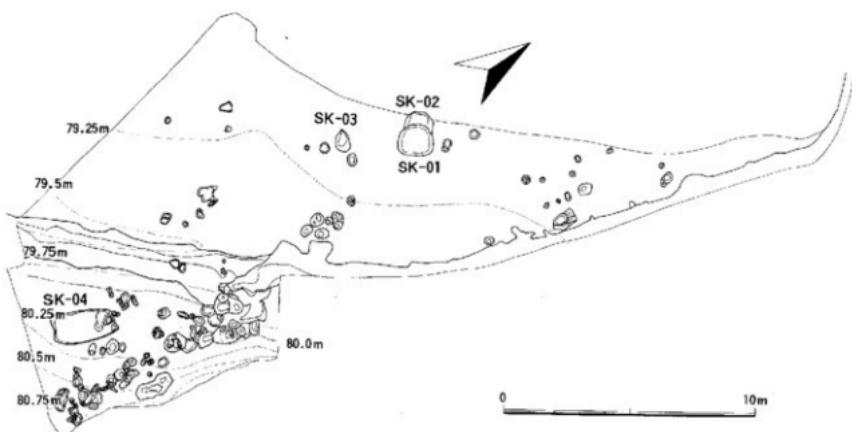


Fig. 29 9区遺構配置図(1/200)

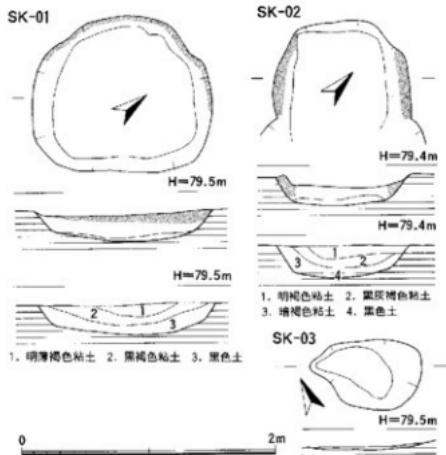


Fig. 30 9区焼土坑実測図(1/40)

## 第10節 10区調査の記録

### 1. 調査区概要(Fig. 33)

10区は丘陵北側の緩斜面先端に位置する。旧地形では調査区外北側が河川原となり、調査区部分は北側から2m程度の段差がある。表土下5~20cmで明褐色土の遺構面になる。遺構面はほぼ平坦で、北西にわずかに傾斜する。遺構は調査区のほぼ全体で検出されるが、調査区南東側では分布が切れる。

検出された遺構の種類は半地下式炭窯3基、焼上坑、上坑、溝、ピットなどで、遺構出土遺物は少なく、遺物の大半は上層包含層、及び段落ち部分の堆積層中から出土している。

### 2. 検出遺構・遺物

#### (1) 半地下式炭窯(Fig. 34)

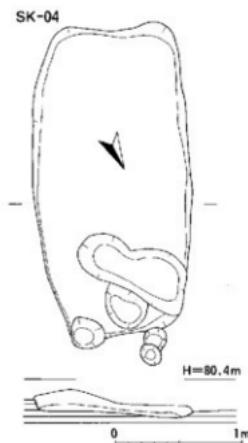


Fig. 31 9区土坑実測図(1/40)

SK-25 調査区北側で検出した半地下式炭窯と見られる土坑で、他の炭窯よりも全長が短い。平面形は長方形で細長く、北西側がかなり浅くなる。削平の影響を考慮すると北西側か南東側にさらに延びた可能性もある。両側長壁は床から直立する。南東奥壁は床からやや開き気味に立つ。北西壁は浅く、遺存状況が悪い。側壁の被熱は弱く、硬化した個所はない。床面は西から東に緩く落ち、東側に平坦面を形成する。十層堆積状況は、最下層に薄い炭化物の層があり、上層は流れ込みの様相を呈する。

SK-25本体の北、西、南側に溝状遺構が開むように位置しており、炭窯の周囲に周溝状遺構があった可能性がある。

SK-26 調査区北側で検出した半地下式炭窯で、主軸を北西→南東方向に向け。平面形は隅丸長方形で、軸線に対して若干屈曲する。北側は浅くしか遺存せず、削平の可能性もあるが、窯体の本来の長さはほぼ現況でとどまると思われる。側壁は両長壁が直立し、南奥壁は緩く立ち上がる。床面はほぼ平坦で、北側に一段高い部分があり、窯本体は一段低い部分と見られる。床面にピットが4ヶ所あり、覆土が炭混じり灰黑色土であることから焼成前のピットと見られ、窯体内に支柱があったものとみられる。

SK-29 調査区北西隅で検出された半地下式炭窯で、北側は段落ちによって削られており、本

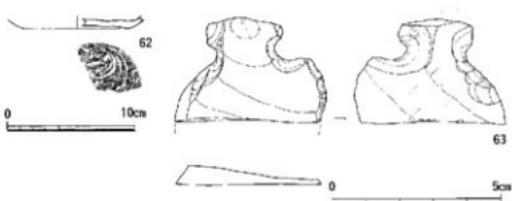


Fig. 32 9区遺物実測図(1/4-2/3)

來は更に長い可能性がある。平面形は隅丸長方形で細長い。壁面の残りは悪く、立ち上がりの状態は不明だが、床面との境界は明瞭で、やや開き気味に立ち上がるものと考えられる。床面には木根による細かい凹凸が目立つ。北側端部と南側端部に一段低い部分があるが、それ以外の部分は総じて平坦で傾斜はない。SK-26と同様に北端と中央やや南よりにピットが4ヶ所あり、窓内の支柱であったと考えられる。

このSK-29を取り囲むように溝、土坑が位置しており、SK-25と同様に周溝状遺構の可能性がある。

## (2) 焼土坑 (Fig.35)

10区で検出された焼土坑は土質によるものか、上端付近が崩れたものが多い。

SK-23 調査区北側で検出される。平面形は隅丸長方形で、長軸を北東—南西方向にとる。側壁は床からほぼ直立する。各側壁とも被熱が強いが、東壁の一部が崩れる。また上端付近の壁は崩れて聞く形になる。床面は細かい凹凸が見られ、やや湾曲する。床面土質は灰色砂質土になる。

SK-24 調査区中央部付近で検出される。平面形は隅丸長方形でやや細長い。上端は丸みを帯びる。北東、南西側を別遺構に切られる。主軸方向は北東—南西方向でSK-23と平行する。壁面は床から直立する。南側上端付近は崩れて広がる。床面はほぼ平坦で、細かい凹凸が見られる。床面土質は暗灰色砂質土。

SK-27 調査区中央で検出された焼土坑で、主軸を北西—南東にとり、SK-21の主軸方向と直交する。平面形は隅丸長方形で、短辺はかなり丸みを帯びる。北東側長辺は上部が崩れて丸くなる。側壁は直立し、一部内側にせり出す。周囲とも強く被熱し、赤変する。床面近くは還元炎焼成により灰褐色に変色し硬化する。床面はやや内湾する。床面土質は灰色砂質土になる。

SK-28 調査区北側で検出され、主軸方向は北東—南西方向でSK-23と平行する。平面形は隅丸長方形で、南側の一部が崩れる。軸線に対し、わずかに屈曲する。側壁は周囲とも直立し、強く被熱

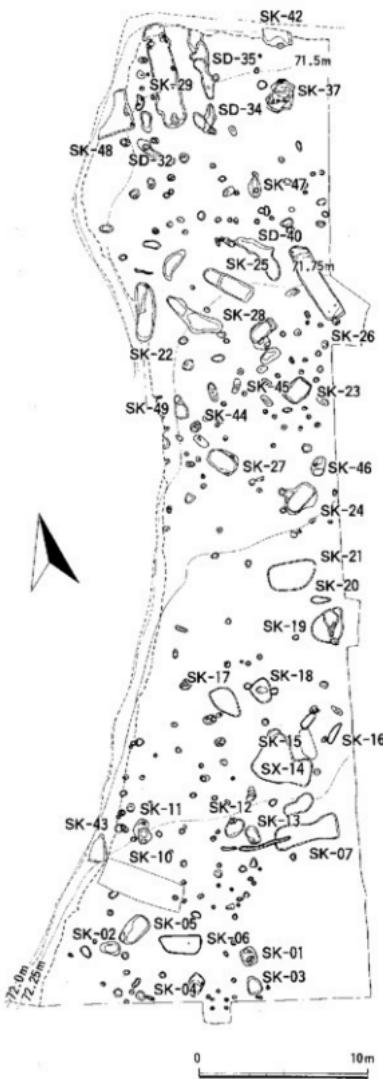
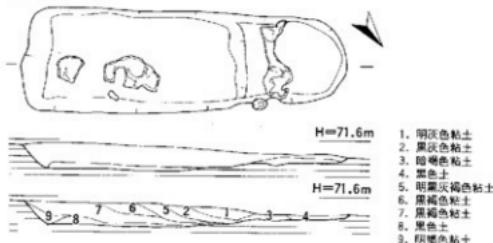
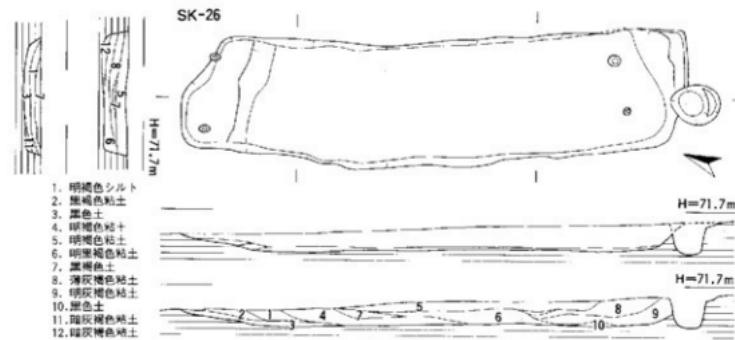


Fig. 33 10区遺構配置図 (1/300)

SK-25



SK-26



SK-29

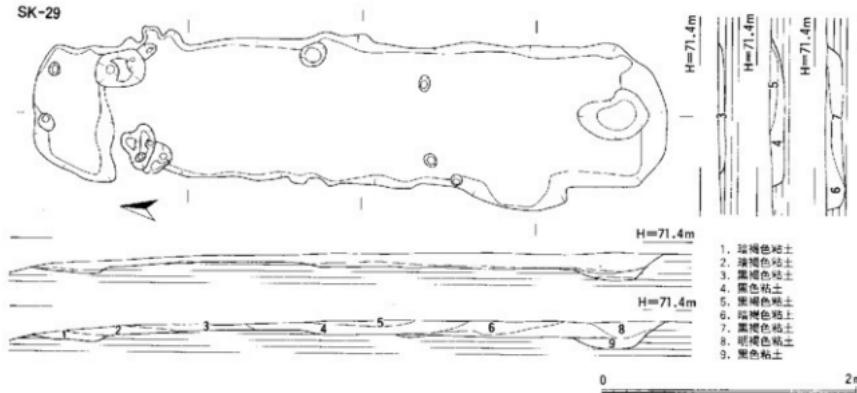


Fig. 34 10区半地下式炭窯実測図(1/40)

する。東側側壁は上端付近で段を形成する。床面は西側が若干高い。床面十質は灰褐色粘質上。

SK-37 調査区北側で検出され、平面形は圓丸長方形で南西壁がやや短い。北西、南東側が崩れ、他の上端付近も大きく崩れる。側壁は壁から直に立ち、四周とも強く被熱する。一部の壁面は内側に張り出す。床面は凹凸が目立ち、ピットがみられる。中央部が周囲よりも一段低くなる。

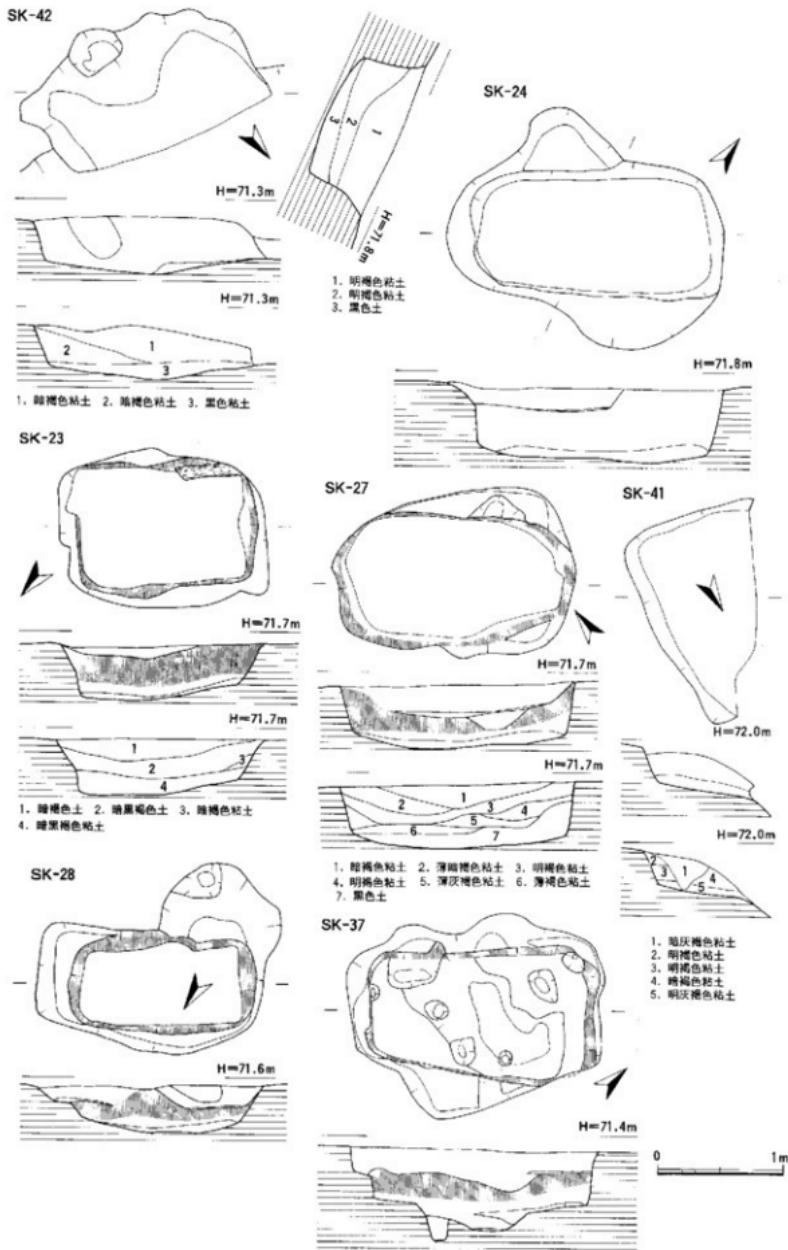


Fig. 35 10区烧土坑实测图(1/40)

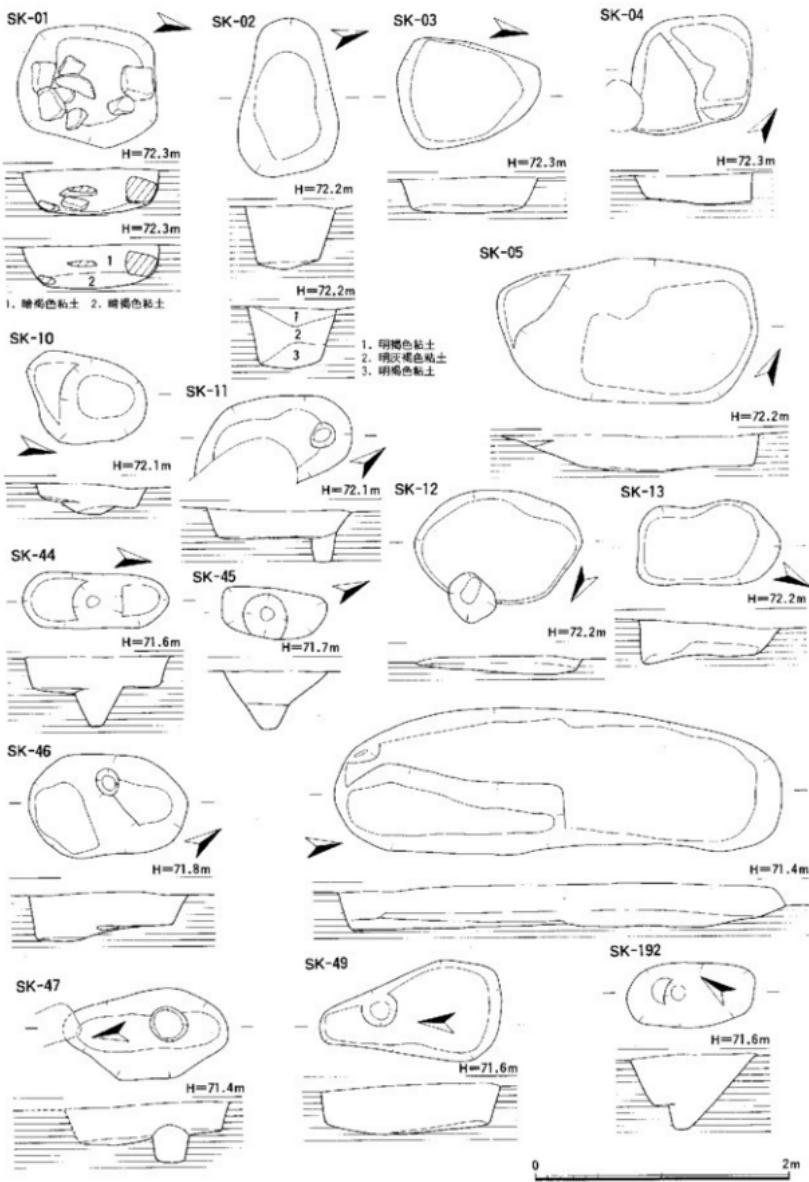


Fig. 36 10区遺構実測図1(1/40)

SK-41 調査区南西側で検出され、西側が大きく削られる。主軸は南北方向に向くとみられる。壁面は上方に緩く開き、床面は西側に傾斜する。

SK-42 調査区北端で検出された焼土坑で、北側は段落ちにより削られる。上端平面形は本来隅丸長方形又は台形を呈すると考えられる。北側が内部に大きく張り出し、壁面に掘り込みがみられる。周囲の被熱は弱い。

### (3) 土坑 (Fig. 36, 37)

検出された土坑のうち、掘り方が明確なものを中心に述べる。

SK-01 調査区南側で検出され、隅丸方形で覆土内に転石を多く含む。

SK-02 調査区南西側にある。中央部がややくびれる不整形。

SK-03 調査区南側で検出され、断面は緩い碗状を呈する。

SK-04 調査区南側で検出され、隅丸方形に近い。壁は直立し、床面は北に傾斜する。

SK-05 平面は隅丸長方形で南側に段を持つ。床面は平坦で水平。土坑墓か。

SK-10 調査区南側で検出され、北側が細い。断面は鉢状で床面に凹凸あり。

SK-11 南側をSK-10に切られる。楕円形で断面は台形となる。床レベルはSK-10と同じ。

SK-12 調査区南側で検出された土坑で、遺存状態が悪く、断面は皿状。細かい凹凸がある。

SK-13 台形で西側壁が狹まる。北壁が緩く立ち、南側床面が深くなる。

SK-44 楕円形で中央部がわずかにくびれる。壁は床面から直立し、床面中央にピットがある。

SK-45 楕円形で西側が直線的。壁は開き気味に立ち、床面は擂鉢形で中央にピットを掘る。

SK-46 調査区西端で検出され、楕円形で東側がややへこむ。西壁際にピットがある。

SK-47 平面形は楕円形で北側を切られる。床面は平坦で中央部にピットを掘る。

SK-48 調査区西端で検出された方形の遺構で、西側を削られる。床面は平坦でピットなどは見られない。堅穴住居の可能性がある。

SK-49 平面形は台形で、床面は平面になり、西壁際にピットを1つ掘る。

SK-192 平面形は楕円形で北側にテラスを持ち、中央部がピット状に深くなる。検出時はピットとしていたが、他の同様の遺構と併記する。SK-44、45、47、49、192は形態より同種の遺構と見られ、同時期又は同一構造物を構成する遺構の可能性がある。

### (4) 調査区内出土遺物 (Fig. 38, 39, 40)

調査区内で出土した遺物のうち、図示可能なものを以下記述する。

#### 1) 土器

64～75は遺構出土土器で、縄文時代の遺物が多い。64・65は刻目突帯文土器で晩期に属する。66もほぼ同時期か。67は浅鉢。69も刻目突帯を持ち、晚期。70は深鉢底部。71は山形押型文を施文する。73は外面に格子文を施文する。74は外面にリボン形の粘土を貼り付ける。76～82はピット内出土土器。76は弥生中期の竈胴部分とみられる。77・78は刻目突帯文土器。79は外面に刺突文を施文する。80は

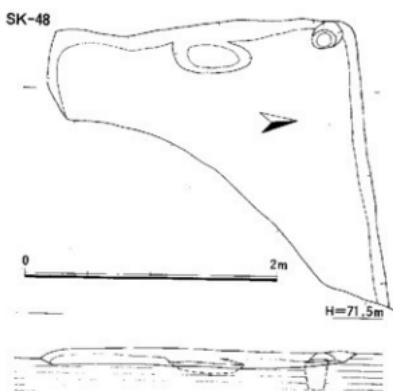


Fig. 37 10区遺構実測図2(1/40)

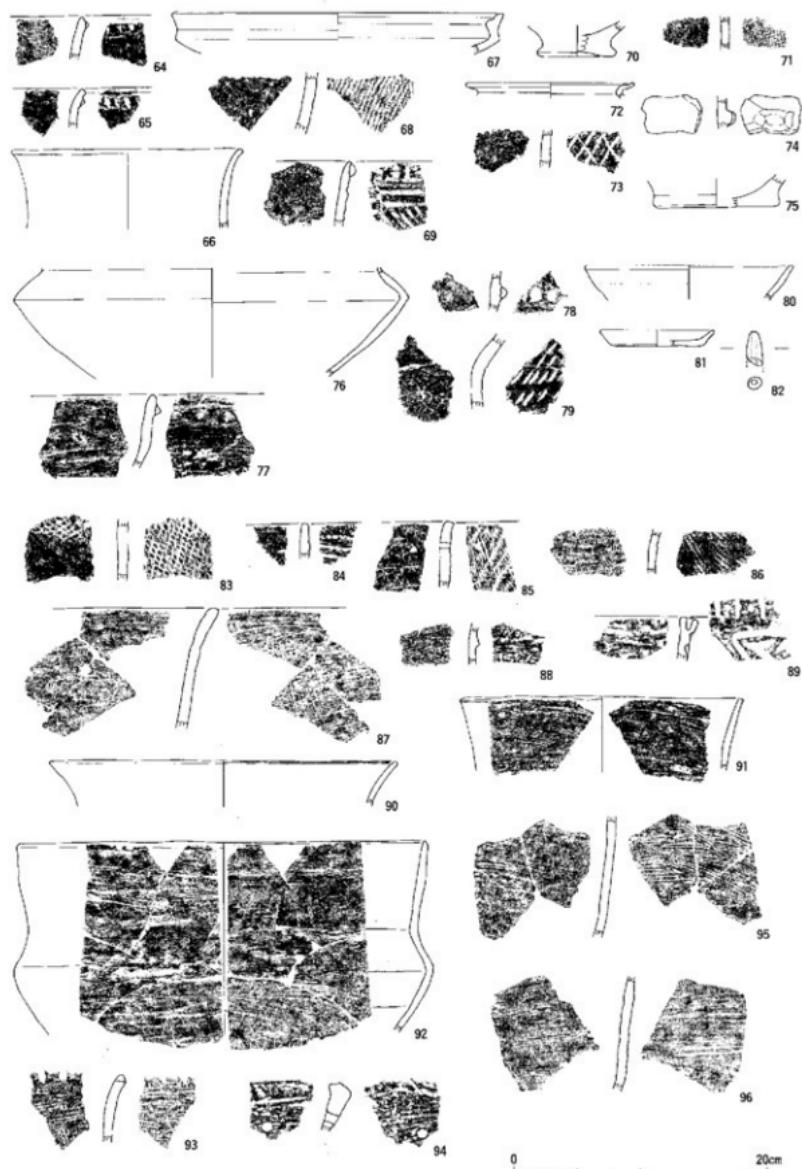


Fig. 38 10区遺物実測図 1 (1/4)

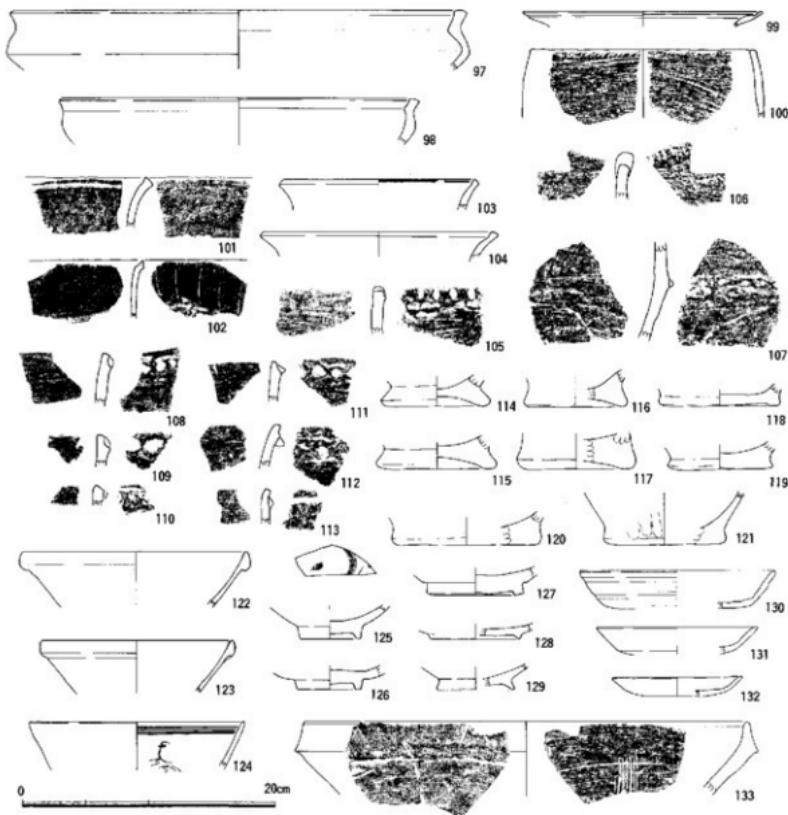


Fig. 39 10区遺物実測図 2 (1/4)

瓦器椀、81は土師器皿で、いずれも中世に属する。83以下は包含層・遺構面出土遺物。83～121は縄文土器。83は内外面に押型文を施す。84は横方向の撚糸文を施す。87は深鉢で縄文前期に属する。88は突帯をもち、中期前半。90～92は深鉢で、後期後半。95、96もほぼ同時期になる。93～121は晩期に属する。

122・133は中世の遺物。122、123は白磁で玉縁状の口縁をもつ。124～126は青磁。124・125は内面に櫛描文を施す。127は白磁碗底部。128・129は瓦器椀底部。130は土師器杯、131は青磁杯。132は土師器皿で、小型で糸切り底。133は播鉢。中世の遺物は主に西側段落ち部分から出土する。

## 2) 石器

出土石器のうち、製品と見られるものを図示しているが、石鎚、尖頭器類が多い。図示した遺物のうち、黒曜石製は137、138、142で、他は安山岩製である。

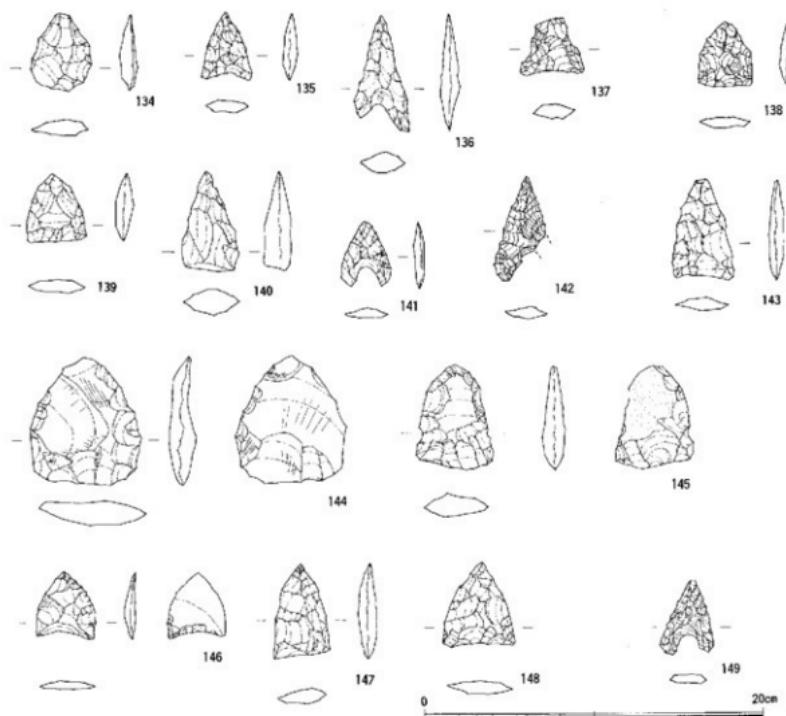


Fig. 40 10区遺物実測図 3 (2/3)

## 第11節 11区調査の記録

### 1. 調査区概要 (Fig.41)

11区は10区の北側に河川をはさんで位置する。標高は66m～67mを測る。西側は川に面し、全体に平坦で緩く北に傾斜する。遺構面は水田耕作上直下の明褐色粘質シルト上面で検出される。検出遺構は土壌、焼土坑、溝、ピットで、土坑のうち、岩、礫を投棄した土坑が確認され、水田造成時のものと考えられる。調査区東側は緩く落ちて疊混じりの地山となり、河川に連続するものと見られる。この部分では明確な遺構は少なくなる。

### 2. 検出遺構・遺物

#### (1) 焼土坑 (Fig.42)

SK-24 調査区北側で検出した焼土坑で、南側上端が一部崩れる。平面形は隅丸長方形で細長い。短辺部分は外側に張り、丸みを持つ。側壁は直立し、東側に被焼の強い部分がある。床面は平坦で東側がわずかに低くなる。覆土の堆積状況は流れ込みの様相を呈する。

SK-27 調査区中央部南側で検出する。平面形は長方形を呈し、各辺は直線的である。側壁は直立し、

強く被熱する。床面は平面で凹凸は見られない。

SK-28 調査区北端で検出され、北半分は削られて失われる。平面形は遺存部分からみて長軸を東西方向に取る隅丸長方形と考えられる。南壁面は床面から直に立ち上がり、被熱は弱い。床面は平坦で北側に傾斜する。

SK-31 調査区北側で検出され、北側の一部が削られる。主軸を南北に取り、楕円形に近い隅丸長方形で整った形である。壁面は垂直に立ち、壁面の一部に被熱の高い個所がある。床面は内湾して緩い凹凸がみられ、北側に楕円形の掘り込みがあるが、土層から後世のビットと見られる。

SK-33 調査区中央で検出された焼土坑でやや大型である。平面形は台形に近く、南東側が広くなる。壁面は床面から緩く聞いて立ち上がり、両側壁に被熱の強い部分がある。床面は平面で北西側がわずかに下がる。遺構内北西側で炭化材が良好に遺存する部分がある。

SK-55 調査区北側で検出され、平面形は隅丸長方形で各辺とも丸みを持つ。壁は浅く遺存し、各壁は緩く聞いて立ち上がる。床面は緩い凹凸が見られる。

SK-56 調査区南東側で検出された焼土坑。平面形は長方形で東側が広くなる。各側壁は直線的に延び、南東側以外はコーナーが明瞭で側壁も直立する。各壁は強く被熱する。床面は西側が低くなり、床面上で炭化材が検出される。材の方向は主軸に直行する。

SK-57 調査区東側で検出し、SK-55に隣接する。平面形は円形で、断面は浅い皿状になり、床面と壁との境界は不明瞭である。内面の被熱は弱い。

SK-58 調査区東側で検出された焼土坑で、小型である。平面形は隅丸長方形で、北西側が外に広がる。断面は皿状で、浅く遺存

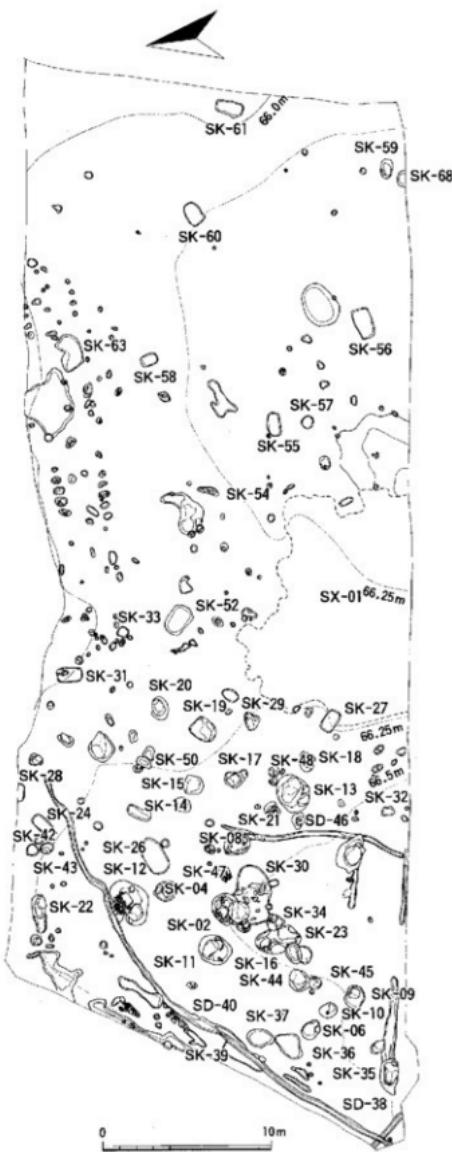


Fig. 41 11区遺構配置図(1/300)

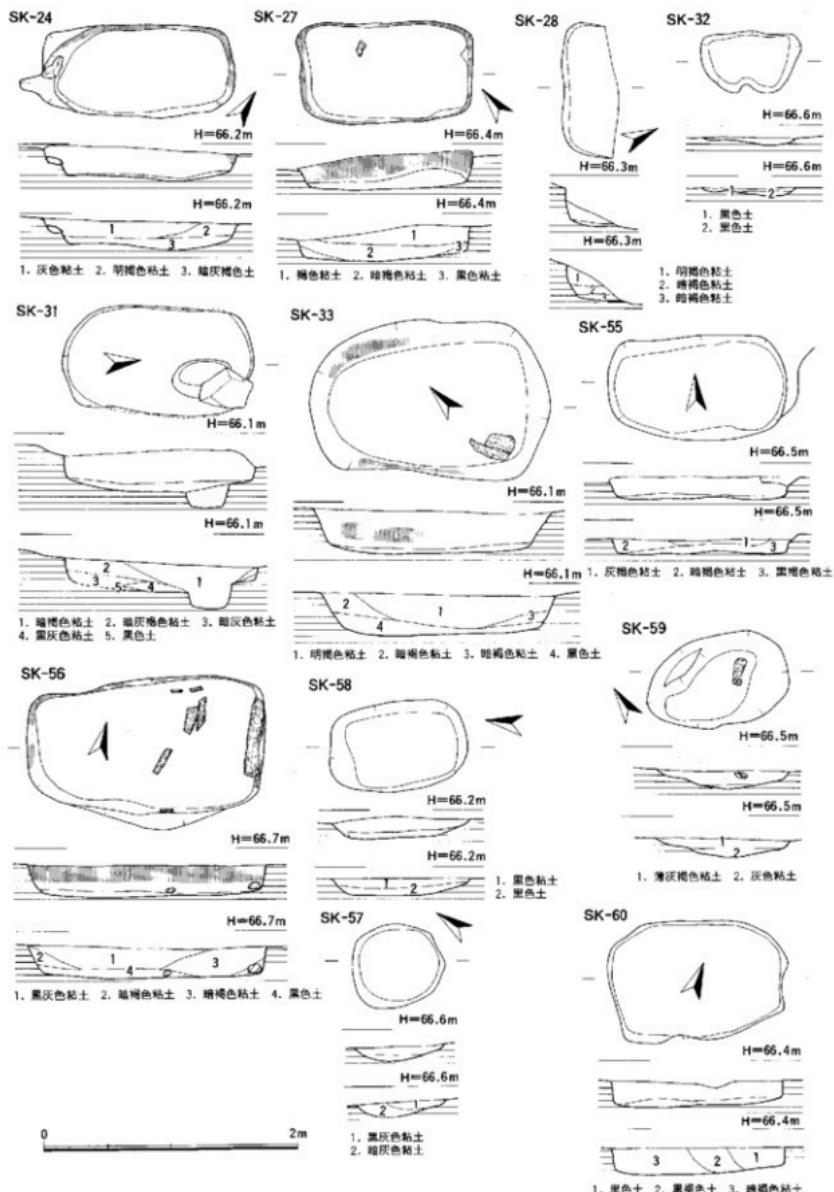


Fig. 42 11区焼上坑実測図(1/40)

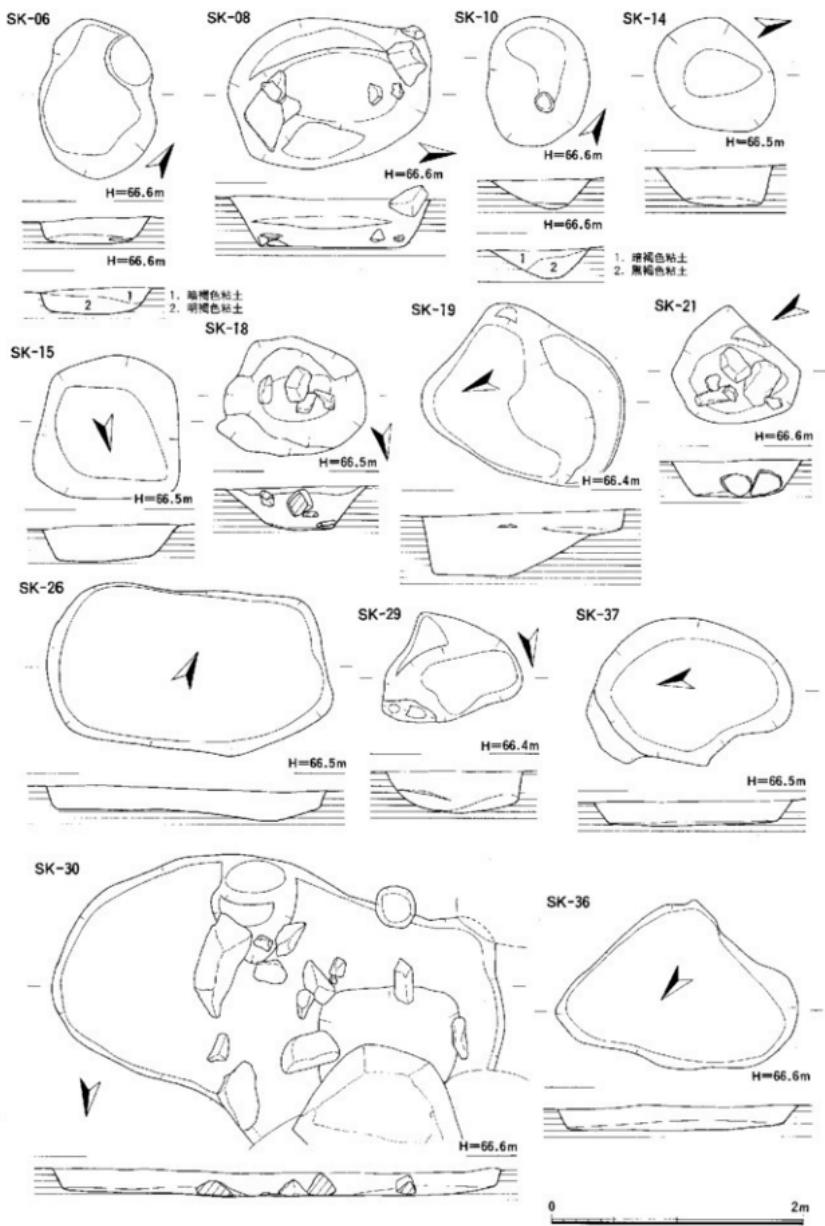


Fig. 43 11区土坑实测图(1/40)

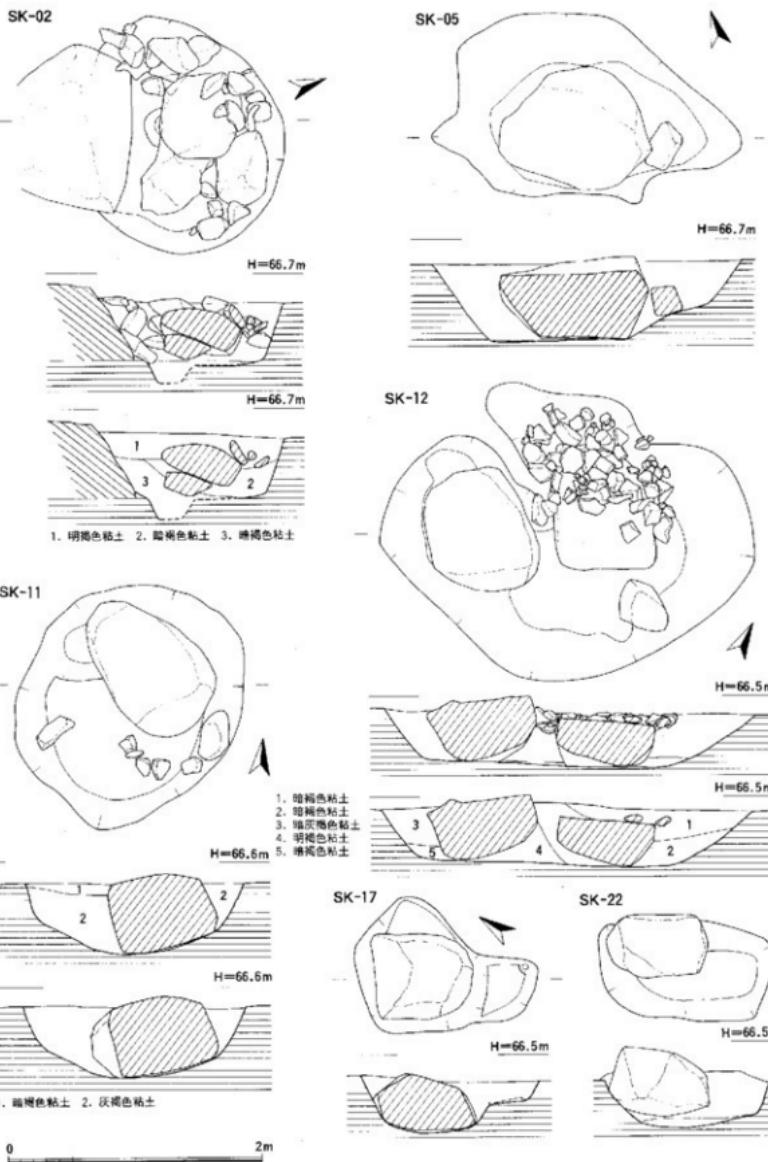


Fig. 44 11区廐棄土坑実測図 1 (1/40)

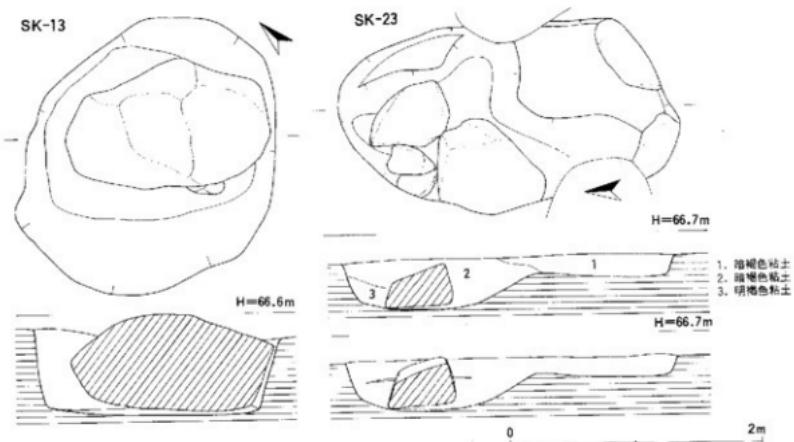


Fig. 45 11区焼土坑実測図 2 (1/40)

する。床面は平坦で壁との境界ははっきりしない。

**SK-59** 調査区南東隅で検出した焼土坑で、平面形は楕円形を呈する。断面形は楕円形で、北側にテラス状の段を造成する。断面は皿状で、壁と床面との境界ははっきりしない。遺構内東側で炭化材を検出するが、遺構面から浮いた状態で出土する。

**SK-60** 調査区西側で検出され、平面は隅丸長方形で丸みを持つ。壁面は直立し、床面は平坦で壁と床との境界は明瞭に屈曲する。床面西側がわずかに下がる。

#### (2) 土坑(Fig.43)

**SK-06** 平面形は卵形で、断面は台形を呈する。壁面はやや開いて立ち上がり、北側部分で地山中の石にあたって不整形になる。床面はほぼ平坦で、南東側が若干低い。

**SK-08** 調査区西側で検出された土坑で、平面形は楕円形で、東側にテラスを作る。床面は平坦で断面は鉢状になる。覆土内に転石が多く含まれる。

**SK-10** 平面形は楕円形で、南側が緩く落ちる捕鉢形を呈する。底部にピットを掘る。

**SK-14** 平面形は楕円形で、断面は台形となり、北側が深くなる。床面は北に細長い楕円形で、北側壁が強く立ち上がり、他の壁は緩く傾斜する。

**SK-15** SK-14に隣接する。平面形は隅丸長方形で、全体に丸みをもつ。床面は平坦で、壁は南東、北西側で直立する。

**SK-18** 平面形は楕円に近い不整形。断面は楕形で壁は緩い。遺構覆土内に転石を多く含む。

**SK-19** 平面形は隅丸方形に近く、遺構北側でテラスを作る。南側側面は緩く立ち上がる。

**SK-21** 平面は不整形で、壁は緩く傾斜し、断面は台形となる。遺構覆土内に転石を多く含む。

**SK-26** 平面形は隅丸長方形で、東西側面は外に張り出す。壁は床から直立し、床面は東側で深くなる。焼土坑に近い形だが、覆土に炭化物は含まれず、壁面の被熱もない。

**SK-29** 平面形は不整形で、遺構内南側にテラスを持ち、北側でピットを掘る。床面は湾曲し、壁は

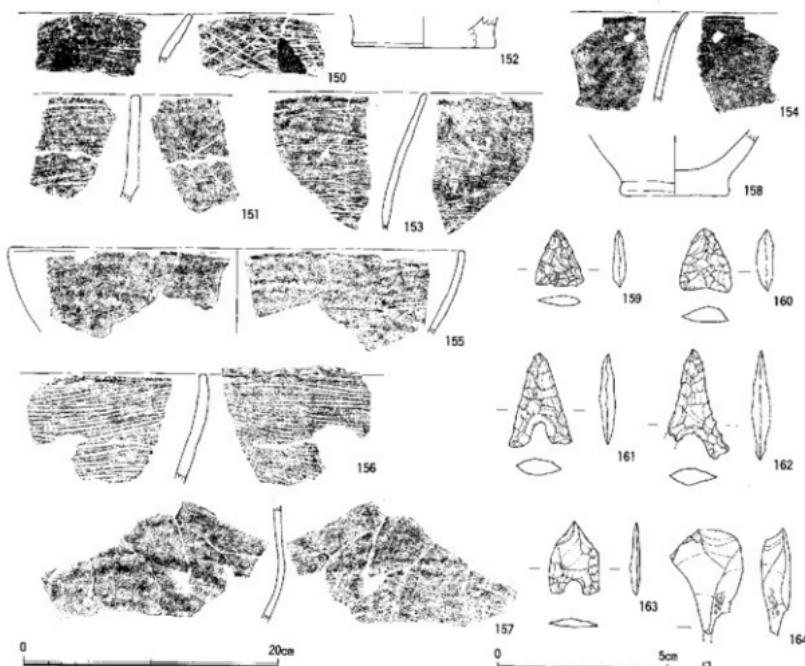


Fig. 46 11区遺物実測図(1/4・2/3)

直立する。

SK-30 平面形は楕円形でSK-02に切られる。浅い盆状を呈し、遺構内に転石を多く含む。

SK-36 平面形は隅丸三角形で、浅い。床面は平面で、南側が若干深くなる。

SK-37 楕円形の土坑で、床面は平坦な盤形を呈する。

### (3) 廃棄土坑(Fig.44,45)

土坑のうち、1m前後の土器を廃棄したと見られる土坑をここでは廃棄土坑として記述する。そのうち、主なものを下で述べ、図示する。

SK-02 円形の土坑で、南側は地山中の巨岩の面で区切られる。内部は岩、大型礫で充填される。

SK-05 楕円形の土坑で長1 mの岩が廃棄される。床面は平面で、床面幅は岩とほぼ同じである。

SK-11 円形の土坑で、岩、礫が廃棄される。岩に対し、土坑はやや大きめである。

SK-12 楕円形の土坑で、内部で岩2個と多数の礫が検出される。岩は遺構面のレベルで割れており、人為的に割った可能性がある。礫は遺構面付近にまとめて廃棄される。

SK-13 楕円形の土坑で長1.5 m以上の岩を落とす。土坑の大きさは岩とほぼ同じである。

SK-17 土坑は不整形で、南側にテラスを作る。内部に岩を1個廃棄している。下端面は岩の大きさとほぼ同じ大きさになる。

SK-22 柄円形の土坑で、岩を1個廃棄する。岩の大きさに比べ、土坑の大きさが大きい。

SK-23 不整形の土坑で、一段深い北側で岩を落とす。南側は浅く、別遺構の可能性がある。

#### (4) 調査区出土遺物 (Fig.46)

遺構内、包含層からは主に縄文～中世の遺物が出土した。中世の遺物はほとんどが小片で、図示不可能。以下は縄文の遺物を中心に述べる。

150から158は縄文土器。150は深鉢口縁部で、破片下端で屈曲し外側に広がる。口縁外面に格子文を施し、口縁端部には刺突具による刻目を施す。151は深鉢とみられる。口縁部は直立し、破片下端で屈曲する。外面はナデ、内面は横方向の条痕文。152は底部で、平底を呈する。153は深鉢口縁部で外側に緩く開く。口縁端部は仕上げが粗く、口縁部に凹凸が見られる。内外面とも横方向条痕文を施す。154は精製の深鉢口縁部で外側に緩く開く形態を呈し、全体に薄い。焼成後に穿孔を行う。内面は横ミガキ、外面は調整不明。155は浅鉢で、浅い椀形を呈する。口縁部上面はナデで面取りする。内外面ともナデ。156は深鉢口縁部と見られる。口縁端部には刺突具による刻目を施す。内外面ともに横方向の条痕文を施す。157は深鉢胴部とみられる。屈曲部を境に上半部は直立し、わずかに内湾する。下半部は丸く立ち上がる。外面は下半部で横方向条痕文、上部は横ミガキ。内面は下半部はナデ、上部は横ミガキ。158は深鉢底部で脚部下端は丸くすぼまり底部は平底になる。

159～164は石器。159が黒曜石製で他は安山岩製である。159は小形で三角形を呈し、脚部の抉りはない。160は全体に丸みを持ち、厚い。脚部の抉りは浅い。161は両側辺が直線的で、脚部は深く抉りを入れて作り出す。162は脚部が外側に広がる。163は全体に薄く、調整も粗い。164は石錐で先端部を丸く。把手部は粗く面取りし、先端部は断面四角形で作っていたものと見られる。

## 第12節 12区調査の記録

### 1. 調査区概要 (Fig.47)

12区は11区北側に隣接する。標高は65m前後で、ほぼ平面である。遺構面は耕作直下の明褐色粘質シルト層上面で検出する。検出遺構は上坑、ピット、溝で、遺構内容は11区と近似しており、11区の遺構群が延長して広がっているものと考えられる。遺物はごく少量で、中世～近世の遺物である。

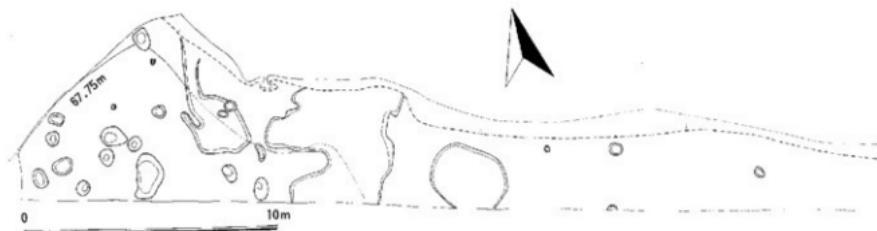


Fig. 47 12区遺構配置図(1/200)

## 第3章 総括

### 1. 廃棄土坑について

11区で大形の石を内部に含む土坑を多数検出した。前章第11節で一部を図示し、説明したが、この遺構についていくつかの共通点が見られる。

- 1 土坑の形態はだ円形に近い不定形で、大きさは1.5~2mのものが多い。深さは1~1.5mを中心とする。断面形は逆台形のものが多い。
- 2 土坑内部に含まれる石は1m前後の大岩から、数十cmの大きさの砾石まで幅広い。
- 3 大岩の上端は遺構検出面からわずかに上に出る程度で、大きさはみ出しきれない。
- 4 遺構壁面に地山中の砾がはまり込んでいることが多く、土坑内部壁面、床面に凹凸がみられる。

この共通点を考慮して、土坑の性格は水田の開墾の際に十坑を掘って地山中の大岩や砾を投げ込み廃棄したものであろうと考えられる。したがって、土坑の形態、深さは大岩の大きさに規制され、ほぼ人岩が收まる程度の大きさ、深さになる。

これらの廃棄土坑の時期は十坑内からの遺物が少ないと確定はできないが、水田開墾の時期に当たるものと見られる。近隣で出土した集落遺跡の年代から見て、この地域で水田開発が盛んになる時代、すなわちおおむね中世後半~近世に属する遺構であると考えられる。

### 2. 木炭窯について

1区SK-01、SK-11、2区SK-01、10区SK-25、SK-26、SK-29の各遺構はその形態、覆土、壁面の被熱状況から製炭用の木炭窯とみられる。本調査で検出された各木炭窯は直線的に細く伸びる形態を呈し、焚口、煙道、横口は検出されていない。

これまで福岡市内で検出された地下式木炭窯は2遺跡2遺構で、いずれも宝見川流域とその隣接地に位置する。西区鷹崎古墳群A群第3次調査(\*1)で検出された木炭窯は横口付炭窯で窓側面に7箇所の横口を持つ。窓本体は地山を削り貫いて構築し、方向は等高線にやや斜めにのびる。全長6.8m、幅60?80cmで、焚口、煙道、横口が完備し、窓本体に沿って外側に開窓部分がつく。西区浦江谷遺跡群第1次6区調査(\*2)で検出された木炭窯も横口付炭窯だが、横口は1ヶ所だけである。窓本体は地山を削り貫いて構築し、方向は等高線に直交する。全長7.5m、幅57cmで煙道、横口が備わる。2基ともに内部から炭化物以外の遺物はほとんど出土せず、遺構の時期を推定する手がかりは少ない。

今回の調査で検出された炭窯は上の2基よりも付帯設備が少なく簡単な構造になっている。横口をもたず窓本体のみで作られていて、焚口が本来備えられていたかどうかとも不明である。また天井部分が残る遺構がなく、遺構側壁も浅くしか遺存しない。このことから遺構上部は地山掘り込みではなく、粘土などを用いて側壁を積み上げて構築されていたと考えられる。これら構造的な相違を踏まえて3遺構の前後関係を見た場合、最も古相のものが鷹崎古墳群出土木炭窯のように横口を複数持つもの、最も新相が中山遺跡の一連の木炭窯と見ることが出来る。

また、10区で検出された炭窯のうち、SK-25、SK-29の周囲に窓を取り扱るように溝状遺構が配置される。これらの溝は窓の構造と一体のもので、排水・防湿の機能をもつ遺構とも考えられる。

今回の調査を含めこれらの木炭窯に隣接、近接して製鉄炉がつくられている(\*3)。これらの木炭窯は製鉄用の木炭の供給源と考えられる。

\*1 福岡市教育委員会「鷹崎古墳群2：福岡市埋蔵文化財調査報告書第506集 1997

\*2 福岡市教育委員会「宝見が丘」福岡市埋蔵文化財調査報告書第614集 1999

\*3 鷹崎、浦江谷両遺跡では本体間に隣接して製鉄炉が確認されている。また中山遺跡の南東側に隣接する内野原田遺跡では平成3年度に調査が行われ、大量の鐵滓が出土している。



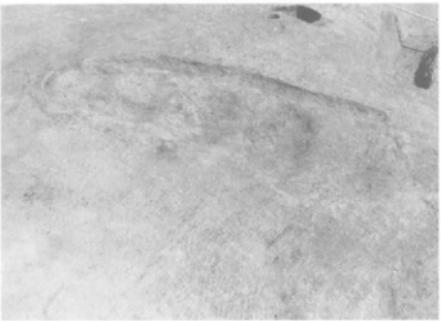
1 1～3区全景(北から)



2 1～3区遠景(南から)



3 1区全景(北から)



4 1区SK-02(南から)



5 1区SK-03(南西から)



6 1区SK-06(北から)



7 1区SK-10(北から)



8 1区SK-12土層断面(南から)



1 2区全景(東から)



2 2区SK-01掘削前状況(南から)



3 2区SK-01(南西から)



4 2区SK-01(南東から)



5 2区SK-06(北から)



6 2区SK-05(南から)



7 3区全景(西から)



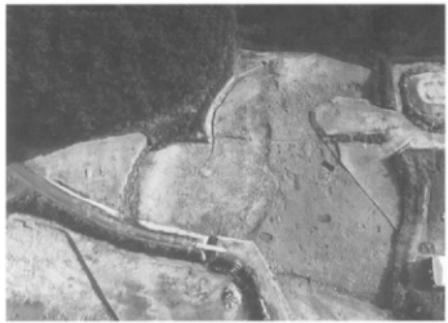
8 4区全景(南から)



1 4区SK-01(東から)



2 5~7区付近全景(東から)



3 5区全景(西から)



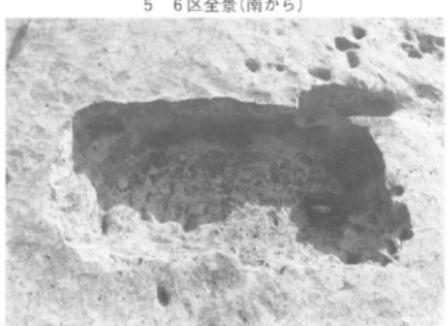
4 5区SK-06(南から)



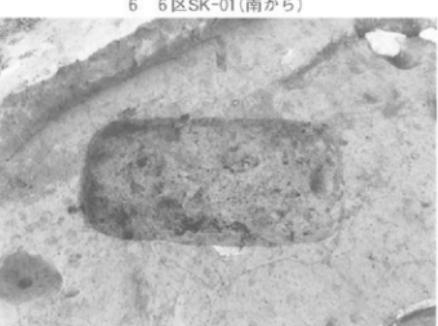
5 6区全景(南から)



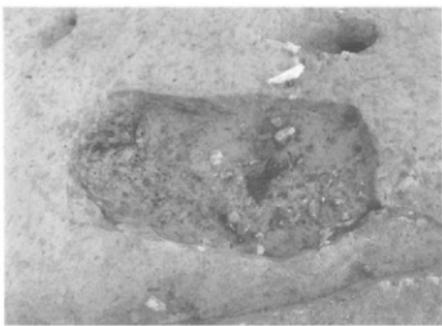
6 6区SK-01(南から)



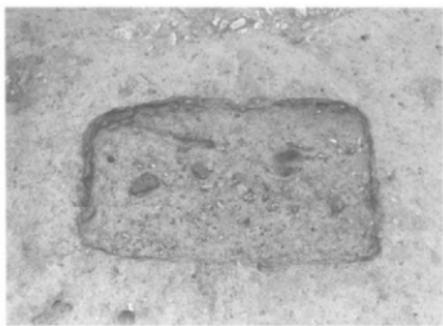
7 6区SK-04(北から)



8 6区SK-10(南から)



1 6区SK-11(西から)



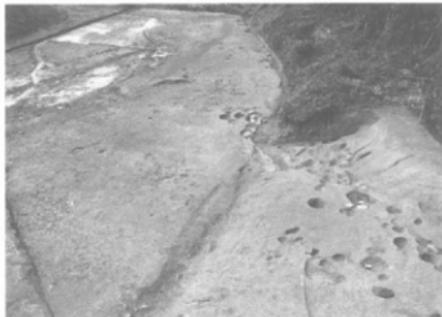
2 6区SK-15(北から)



3 7区全景(東から)



4 8区全景(西から)



5 9区全景(南から)



6 10区南半部全景(南から)



7 10区北半部全景(北から)



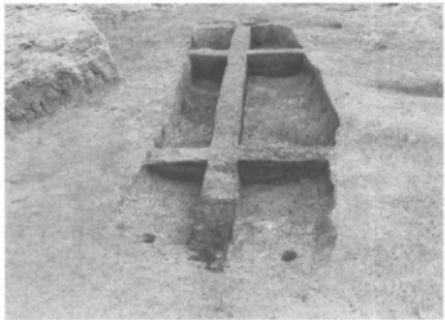
8 10区SK-25付近(南から)



1 10区SK-25土層(西から)



2 10区SK-26(西から)



3 10区SK-26土層断面(北から)



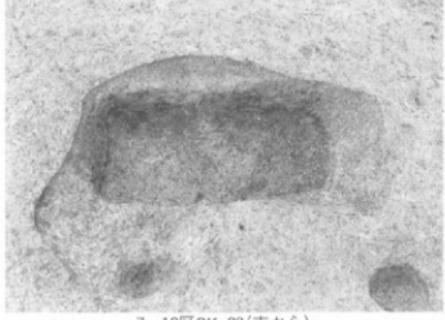
4 10区SK-29検出状況(南から)



5 10区SK-29付近(南から)



6 10区SK-24(南から)



7 10区SK-28(南から)



8 10区SK-37(東から)



1 11区西側(北東から)



2 11区全景(西から)



3 11区SK-56(北から)



4 11区SK-12(北から)



5 11区SK-11(南から)



6 11区SK-20(南から)



7 11区SK-33(南西から)



8 12区全景(西から)

---

## 中山遺跡

—内野西場整備地内埋蔵文化財調査報告書—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第687集

2001(平成13)年3月30日発行

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 株式会社ナガシマ

福岡市博多区豊1丁目9-18

---